

田舎暮らしの

ススメ

4

交流居住の先進自治体事例集



生まれる場所は

選べないけれど、

暮らす場所は

“わたし”が選ぶ。

朝、いつも通り家を出て、いつもの時刻の電車に乗る。
日々届くメールを確認し、約束の時間通りに人と会う。
昼食は、カフェやファストフード、たまにコンビニ。
夜は、世界中の料理が堪能できるレストランから選び、
朝方まで営業している飲み屋へ行くこともできる。

都会の暮らしは、正確かつ便利だ。
予定変更は、効率的な暮らしにはむかない。
だから、想定通りの結果を望むし、
それに応えてくれる環境が整っている。

美しい自然、採れたての食材、優雅に過ぎる時間。
都会の人の田舎への憧れのイメージとは裏腹に、
その暮らしには、すべてがあるわけではない。

駅のホーム。人はまばらだ。
バスが一日に2本しか通らないところもある。
急に雨が降ってもビニール傘があるコンビニは遙か先。

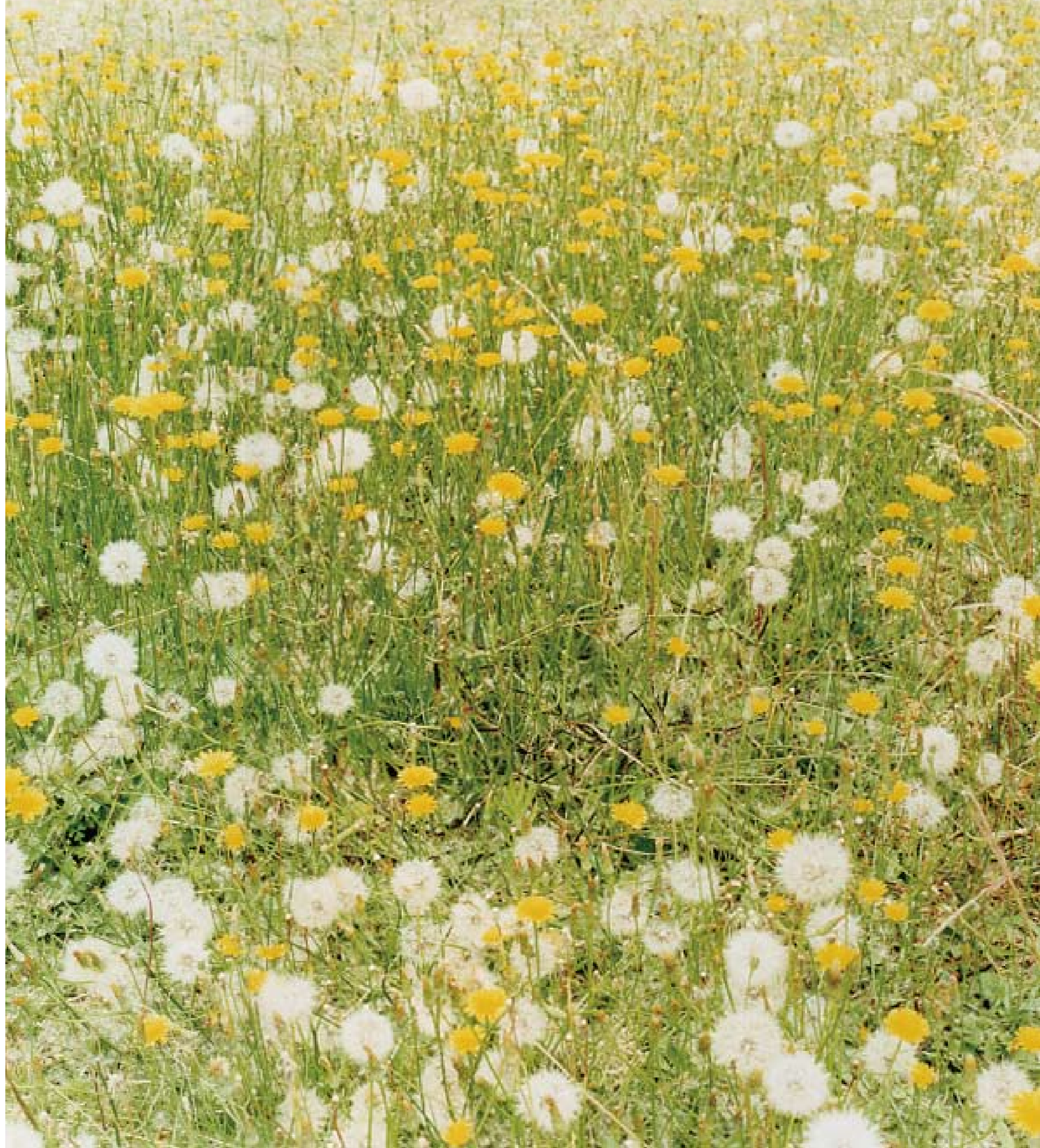
でも、道すがら「こんにちは」と言われたら、
思わず「こんにちは」と返す私がいる。
雨上がりの美しい夕暮れ空を見上げて、
何も考えず歩みを止めて、見とれている私がいる。
予定外の結果に満足している自分がふと顔を出す。

田舎の暮らしには、すべてがあるわけではない。
けれど、考えるよりも先に体が動く。心で感じる。
予定にはない出来事が訪れる暮らし。
それこそが、まさに`自然、。

もしも、ふとした風景に心が動いたなら、
まずは、考えるよりも前に足を一步踏み出してみよう。
心で感じた瞬間に、田舎暮らしははじまっている。

田舎暮らしのススメ

《自然、な私へ、
はじめの一步。》



「交流居住」の推進

現在、我が国では、国全体で人口減少社会へ突入した中で、特に地方は大幅な人口減少と高齢化の更なる進行により一層厳しい状況におかれる一方、価値観の多様化、団塊の世代の定年退職などに伴い、田舎暮らしへの関心が高まっています。

そうした中、総務省では「交流居住＝交流を主たる目的として田舎と都市を行き来するライフスタイル」を提案し、田舎暮らしを求める皆さんのニーズに応えるとともに、地域間交流の促進により過疎地

域をはじめとする地方の活性化を支援しています。

総務省としては、交流居住に興味、関心を持っている方への情報発信の一つとして、交流居住ポータルサイト『交流居住のススメ～全国田舎暮らしガイド～』を通じ、全国各地の地方自治体についての交流居住に関する様々な情報（地方自治体における生活関連情報や滞在施設、体験プログラムなどの情報、田舎暮らしのノウハウ）を提供しているところです。

本誌は、交流居住に積極的に取り組む地方自治体の活動内容や実践者の生の声をお伝えすることにより、これから交流居住をはじめようとする際の参考になることを願って作成いたしましたので、皆さんにご活用いただければ幸いです。

また、この場をお借りしまして、本書の制作にあたり御協力いただきました皆様方に心から厚くお礼を申し上げます。

総務省自治行政局過疎対策室

交流居住のタイプ

総務省自治行政局過疎対策室では、交流居住の目的や都会と田舎とを来訪する頻度、あるいは、田舎での滞在期間等を踏まえて、交流居住のタイプを5つに分類している。

[短期滞在型] 〴〵ちよこっと、田舎暮らし

目的	田舎ならではの生活体験や自然体験、地元の人たちとの交流等
来訪頻度・滞在期間	特定の田舎を年に数回、あるいは毎年繰り返し訪れる。（1回当たりの滞在期間は1～3泊程度）
滞在居住施設	ホテル、旅館、民宿など
イメージ	ハイキングやスキー等の自然探勝・スポーツ、田植えや稲刈り、果樹収穫等の農業体験、お祭りや年中行事などの生活文化体験を楽しむ生活

[長期滞在型] 〴〵のんびり、田舎暮らし

目的	都会の喧騒とストレスから離れて、環境のよいところでゆっくり休むなど、静養・病気療養、避暑、避寒
来訪頻度・滞在期間	滞在期間が1・2週間～3ヶ月程度と長く、行き来する頻度はあまり高くない(年1～数回程度)
滞在居住施設	セカンドハウス、貸別荘など
イメージ	貸別荘を夏や冬に1ヶ月程度借りて滞在する生活

[ほぼ定住型] 〴〵どっぷり、田舎暮らし

目的	仕事場も生活の場も田舎に置き、用事があれば時々都会の住居(こちらがセカンドハウス)を利用する
来訪頻度・滞在期間	都会の滞在時間よりも田舎での滞在時間が長い
滞在居住施設	戸建て住宅、リゾートマンション等(いずれも賃貸含む)
イメージ	田舎の家でホームページの制作や翻訳、執筆活動などの仕事をし、打ち合わせなどで都会に出かける生活。あるいは退職金で田舎に住宅を構え、年に数回、都会の家に暮らす生活

[往來型] 〴〵行ったり来たり、田舎暮らし

目的	仕事や教育など日常生活は都会で行いながら、余暇時間の多くを田舎で過ごす
来訪頻度・滞在期間	週末毎～月1回程度の頻度で都会と田舎を行き来する。（1回の滞在日数は2～3日程度）
滞在居住施設	セカンドハウス、貸別荘、クライנגアルテンなど
イメージ	都会では集合住宅に住み、田舎に所有するセカンドハウスに金曜の夜から車で出かけ、土日は田舎での暮らしを楽しみ、日曜の夜に都会に戻る生活

[研修・田舎支援型] 田舎で学んでお手伝い

目的	田舎ならではの仕事や技術の習得、あるいは援農や森林保全、自然環境保全などに関わる活動への参加を目的とする
来訪頻度・滞在期間	一定の長期期間（1週間～数ヶ月）
滞在居住施設	寮や研修施設、社宅など
イメージ	農林業等の期間雇用や農業技術研修、染色や織物等伝統技術習得のための弟子入りなどで、学び働きながら田舎に住む生活



都会と田舎を行ったり来たり
そんな生活してみませんか？

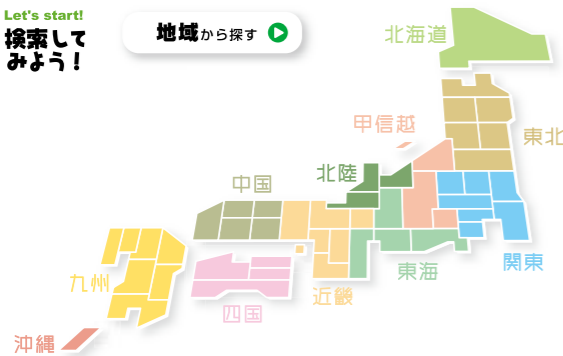
交流居住のポータルサイト、 発信中!! →<http://kouryu-kyoju.net/>

交流居住ポータルサイト「交流居住のススメ」。全国約530の各自治体が、田舎と都市を行き来するライフスタイルの情報を提供しています。生活関連情報、滞在施設、体験プログラム、その地での暮らしのノウハウなど、掲載プログラムは、全国で約4,500件。6種類の検索方法より、必要な情報をお探しいただけます。また、毎月第1・3水曜日にメール

マガジンを発行し、最新の田舎暮らし情報、モニターツアーなどの情報を紹介しております。ポータルサイト「交流居住のススメ」は、交流居住をスタートしようとされている方のサポーターです。田舎暮らしにご興味があるなら、一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。素晴らしい日本の故郷が、お待ちしております。



地域から探す



キーワードから探す

検索

注目のキーワード

まずは注目のキーワードをクリック！

- 空き家
- クラインガルテン
- 体験ツアー
- 農家民宿
- 手作り
- キャンプ



交流居住のタイプから探す



アクセスランキングから探す

都道府県別の一覧表から探す

田舎暮らし支援情報から探す



目次

01 ———— 田舎暮らしのススメ

“自然”な私へ、 はじめの一步。

07 ———— 特集1

私の田舎暮らし「物語」

かつてこの家にあった関係性を受け継いで。(秋田県・鹿角市)
クジラに思いを馳せて、港をめぐる。(千葉県・南房総市)
大自然から学び、生活の原点を知る学校。(三重県・大台町)
百姓仕事という、正直な暮らしかた。(滋賀県・高島市)

15 ———— 特集2

ようこそ、我が町へ

北海道浦幌町／青森県平川市／岩手県久慈市／秋田県鹿角市／山形県金山町／
福島県川内村／群馬県片品村／千葉県南房総市／新潟県阿賀町／福井県池田町／
長野県木島平村／岐阜県白川村／三重県大台町／滋賀県高島市／奈良県下北山村／
和歌山県すさみ町／鳥取県倉吉市／鳥根県雲南市／鳥根県邑南町／山口県阿武町／
徳島県三好市／愛媛県久万高原町／高知県四万十町／長崎県壱岐市／熊本県上天草市／
熊本県山江村／大分県杵築市／宮崎県えびの市／鹿児島県霧島市／沖縄県宮古島市

77 ———— 受け入れ窓口一覧

◎居住タイプでお探しの方はこちらから…

“ちょこっと、田舎暮らし” [短期滞在型]
9,17,19,21,23,25,27,29,31,33,35,39,43,45,47,49,
51,53,55,57,61,63,67,69,71,73,75

“のんびり、田舎暮らし” [長期滞在型]
65

“どっぷり、田舎暮らし” [ほぼ定住型]
13,25,33,37,45,49,51,55,63,65,69,71,73

“行ったり来たり、田舎暮らし” [往來型]
7,23,29,39,59,67

田舎で学んでお手伝い [研修・田舎支援型]
11,35,41,43,53,59,61,75

編集…ASOBOT / レイアウト…東京図案室
写真…小原太平(表紙,1-4,7-14)



かつてこの家にあった 関係性を受け継いで。

前嶋万人さん(67歳)、和歌子さん(58歳) 埼玉県さいたま市在住



私の田舎暮らし「物語」
[往來型]
〘行ったり来たり、田舎暮らし

「教 え子たちもそろそろ定年を迎える頃なんです、僕はよく彼らに〘退職金を使って田舎の土地や家を買うな、と言うんです。田舎では場合によっては年間数万円で空き家と畑を借りることができますから」と、囲炉裏の前に腰掛けて笑うのは元教師の前嶋万人さん。

妻・和歌子さんの実家である渡部家は、100年以上前になる1892年に建てられた名家。この地区の豪農であったため、建物の規模が大きく、かつては多くの使用人を抱えていたという。また、柱や天井だけでなく、見えない構造部分の木材も選び抜かれたものが使用され、建築的な価値も非常に高い。1998年頃から家の傷んでいる箇所の補修工事をはじめ、同時に古民具、農具に鎧や刀など、数百点にもなる文化遺産の整理を行った。その完成に伴い、2003年からは『渡部家史料館』として完全予約制で一般公開し、盛岡や秋田など比較的近い都市部から多くの人々が訪れている。

そんな前嶋さん夫婦が、鹿角市で生活するのは、雪解けが終わる頃の春から寒さが厳しくなる前の晩秋まで。「毎年、4月の中旬頃にこっちに来ると、雪囲いの取り外しからはじまって、最初の1ヶ月は部屋の掃除と庭の手入れなどで、そのほとんどの時間を費やします」と笑って話す万人さんの話に、隣の和歌子さんも「本当に」と深く相槌をうつ。広大な敷地と部屋を要する渡部家を維持するには、ふたりの手だけでは限界がある。特に積雪量の多い冬は、屋根の除雪が欠かせない。

「冬の間は部落のみなさんが雪下ろしをしておいてくれるんです。それだけでなく、細かいことに気がついて、冬場の管理をしてくれる。もともとこの家は、この部落の〘本家、だから、今でもそういう意識が残っている人がいるんです。ただ、そこで協力的であってくれんという事は、渡部家の先人たちが、地域の人から人望を集めていたからなんですよ」

かつては小作人を抱えるような名家

が、日本のあちこちにあった。しかし、現存するものは多くない。『渡部家史料館』は国登録有形文化財に指定されているが、あくまで個人の所有物である。だから、所有者だけでなく、部落の人たちの協力が欠かせないのだ。

「先日、若い頃に渡部家で世話になっていたという90歳過ぎのおばあさんとお話ししていたら、〘本家に入った時から、衣食住の心配がなくなって本当に安心できた、ということを知りました。〘小作人、という誤解を招きがちですが、互いに助け合いながら生活を営んでいた歴史があり、それが今に続いているんです」

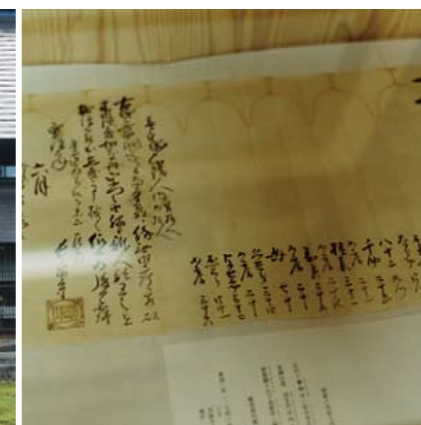
前嶋さん夫婦は、埼玉と秋田の往来という地域間の移動だけにとどまらず、自らも『渡部家史料館』を使って新しい交流の場を提供している。それは、町の人たちからの協力があってこそ。かつてこの家と町で暮らした先人たちの関係性を受け継ぎながら、日々の生活を送っている。

特集1 私の田舎暮らし「物語」

「田舎暮らし」をはじめると、決まった理由はない。

都市の喧噪を忘れた人もいるし旅先での楽しい思い出がきっかけになった人もいる。

子供の頃からの夢だった人もいるかもしれない。人生の数ほどに、その「物語」ははじまっている。





海の恵みがたっぷりある島国で、各地域のいたるところに港がある日本。魚貝類はもちろんのこと、海藻や塩も、遠方まで船を出さずに沿岸で収穫でき、私たちの食卓に運ばれる。しかし、このような海の幸が豊富な日本の港でも、クジラという貴重な生物を捕獲するための沿岸小型捕鯨が行われているのは国内で4箇所だけだ。和歌山県太地町、北海道網走市、宮城県石巻市（鮎川）、そして千葉県南房総市（和田）。中でも和田町では、もともと『房州捕鯨』という捕鯨が伝統としてある中で、ツチクジラによる町おこしを計画している。『房州捕鯨』の特徴は江戸時代初期から捕鯨の熟練者が組織化されていたことや、「クジラのタレ」と呼ばれる、ツチクジラの赤肉をいつまでも食べられるようにした保存食が郷土料理として根づいていることなどがあるが、近年、反捕鯨論により、町の特徴は少しずつ色あせていた。しかし、国際捕鯨委員会（IWC）の管理対象外である小型のツチクジラは、国の規制の下で捕獲が可能であり、和田町では1年間の中で6～8月の間に限り、26頭の捕獲が認められていることから、

近年、まちおこしの資源として見直されてきたのだ。

「すごい近いところで見られるなあ」と言いながら、カメラのシャッターをきりつつ、ツチクジラの解体を夢中で見入るのは愛知県からのツーリズム体験者、長坂尚之さん。昨年、余暇で南房総市などの房総半島を電車で巡っていたとき、途中下車して食べたクジラの味に「子供の頃の味と違う」違和感を覚え、クジラそのものに興味を持ちはじめた。南房総市和田町でツチクジラの解体が見学できることを聞き、クジラの解体現場を見学でき、宿泊の手配もしてくれる便利なセットもあったため、今回の1泊2日の『和田浦くじらゼミ』に申し込んだという。普段の生活は、自動車関係の会社に勤めながら、週末に趣味の自転車でいろいろな場所へ行く行動派。住まいのある愛知県の郊外から、遠くは京都や神戸まで走り、友人と会ってその土地の美味しいものを食べるのが楽しみだ。電車も好きで、東北の海などにも足を伸ばし、自然にふれることも多い。だが、「田舎や自然いっぱい場所にはたまに行くから良いのだと思う」と、移住などは考えていな

い。現在の生活のペースで無理なく田舎暮らしを楽しんでいる。

「1日目の講義の後、本場で食べたクジラの味や種類の豊富さは格別だった」という長坂さん。2008年、この『和田浦くじらゼミ』を主催した『NPO法人 ネイチャースクールわくわく和田』の北見和美さんは、「クジラはこの町の文化だから、伝統や美味しさなどの魅力を活かしたツーリズムのメニューを作りたい」と、クジラの町・和田を応援する。地場産業である捕鯨をなかなかアピールしにくい時代に、「ふつうの田舎、ではない、地域特性を限りなく活かした来訪者の誘致作戦を展開している和田町。クジラの解体は見世物ではないため、一般の見学を可能にはしているが、イベント性を持たないだけに、文化的知識とともにどう外部にアピールしていくかが今後の課題。しかし、長坂さんのような特定の地域資源に魅せられて足を運ぶ人は、少なくはない。「機会があれば、またクジラを見たいですね」という来訪者の思いは、今後の和田町の発展につながっていくだろう。



クジラに 思いを馳せて、 港をめぐる。

長坂尚之さん（37歳）愛知県知多郡在住



私の田舎暮らし「物語」
[研修・田舎支援型]
田舎で学んでお手伝い



大自然から学び、 生活の原点を知る学校。

中村辰彦さん(66歳) 三重県津市在住、田中義朗さん(66歳) 三重県津市在住

三重県大台町は、全国でも指折り
の清流・宮川の源流域から中流
に沿って、東西に細長く広がっている。
伊勢神宮は、20年毎に内宮、外宮、
その他14の別宮すべてが建て替えら
れる「式年遷宮」で有名だが、その際
使用される『お白石持ち』の石は、宮
川の石が使用される。その伝統は
1300年以上にわたって継承されてい
る。さらに、この町域の一部は『吉野
熊野国立公園』に、そして、全域が『奥
伊勢宮川峡県立自然公園』に指定され
ている豊かな自然に囲まれた地域だ。

そんな大台町で、1年を通して40
～50ものプログラムを実施するNPO
法人『大杉谷自然学校』がある。当然、
プログラムの大半は、吉野熊野の山と
宮川の恵みを生かした内容。2001年
に設立されて以来、大台町住民のみな
らず、近隣の伊勢市や県を越えて参加
する人も少なくない。

津市で会社員をしているという田中
義朗さんもそのひとり。2001年に初
めて参加して以来、40回以上参加し
ているという常連だ。「自然林の素晴
らしさと同時に未知の自然との出合い
や、山の厳しさを学べます」と話す。

この日、開催されたのは『春日高縦
走』。「健脚の大人」のみを対象とした、

難易度6のプログラムだ。ホームペ
ージには、難易度2～5までの解説がさ
れているが、『春日高縦走』は、その
上をいく最も過酷なもの。スタッフを
合わせて19名のパーティーを率いる
のは、学校の事務局長であり、大杉谷
山岳救助隊隊長を務める森正裕さん。
24年間、宮川村の山荘で勤務してい
たため、山や渓谷での経験と知識は抜
群で、明るくて頼もしいリーダー的存
在だ。大台町とのかかわりは30年あ
まりになる。

「今日は、朝7時に出発した頃から雨
に降られて、登山途中で霧に包まれて、
午後からは夏の暑い日差しと湿気にさ
らされて、と山のあらゆる表情を体験
することができました。10km以上もの
道のりは大変でしたが、ここから見
えるあの美しい稜線。あそこをみなさ
んは歩いてきたことになりませう」

森さんが、ゴール地点から背後の風
景を指差して一日の総括をすると、参
加者みんなが、服や靴についた土を落
とす手を止めて、指先の向こうにある
稜線を眺める。疲労はピークに達して
いて、1分でも早く帰路について休
みたいところ。しかし、参加者たちの表
情は一樣に明るく、元気を取り戻す。
「もう70回以上参加していますが、今

日は初めての山だったので新鮮でした。
また行きたい山ができました」。下山
してすぐに次回を楽しみにするのは津
市から通っている中村辰彦さん。『大
杉谷自然学校』では、学校のスタッフ
にも移住者がいる。フィールドスタッ
フの池田直代さんは、神奈川県出身で
在住8年を迎えた。

「田舎でのんびり自然に囲まれた生活
に憧れてここまでやってきました。住
居は、久豆地区の旧大杉谷診療所で、
同じ職員で津市から来た岩脇直美さん
と住んでいます。最近、自然学校では
この家の近くに昭和の懐かしさたつぷ
りの空き家を借りました。

そこには、41歳の男性が引っ越し
してきました。自然学校で働きながら、
地域で暮しています」

大台町は、すでに自然学校のスタッ
フを受け入れていることもあり、地域
の人々は歓迎ムードだという。
『上善如水、という水のように生き
ることが理想とする老子の言葉を引き
合いに出し、森さんは今も日々大台町
の自然に学ばされるという。

『大杉谷自然学校』は、大自然を前
にすれば、肩書きや居住地に関係なく誰
もが「学ぶ人」になることを、町の自
然をふんだんに使いながら伝えている。



前から2列目左端が田中さん、その右隣でしゃがんでいるのが中村さん





高 島市は、古来より京都や奈良と北陸を結ぶ場所として栄えてきた。中でも、京阪神エリアへの交通アクセスが便利のため、周りの地域との人の往来は盛んだ。また、水嶺とも呼ばれる地下水系を分ける境界もあってか、広大な森林は豊かな水源となり、豊饒な土地を作ってきた。そのため、畑や田んぼといった農業を営む人が多く、今でも緑豊かな田園風景を保っている。

2009年春、大阪府より高島市に居住した平井崇さん、真季さん夫婦は、そんな自然環境に胸を打たれて暮らすことを決めた。友人の紹介で畑体験へ来たのがきっかけだったが、当初、田舎暮らしを熱望していた真季さんに対し、まったく興味を示さなかった崇さん。何度も誘う真季さんの根気に負け、仕方なく参加してみたのだという。

「とにかく妻についていって、いやいや畑の雑草を抜いたり、耕す作業をしました。そうしたら、驚くほど楽しかった。終日動いたから体はすごく疲れているはずなんだけど、楽しくて疲れを感じませんでした」

アクセサリデザイナーの真季さんは、大阪に暮らしている頃から、自然や環境などに強い関心を持って

いた。もともとは、ものづくりを追求する中で、視野を広げるために勉強していたが、いつしか自分たちの暮らしについて真剣に考えるようになった。

「それでも、考えているより実際に動いたほうが、学ぶことがより多かったです。例えば、植木鉢の中と違って、畑の土の中にはミミズや見たことのない虫がたくさんいる。`野菜は何も殺さずに作られている、というイメージがあったけど、鋤を入れたり、農薬を撒けば、当然虫を殺してしまう。野菜ひとつを食べるのに、たくさんの命を犠牲にしていることを思い知らされました」

それから、週末になるたびに、夫婦は車で大阪から通い、友人に借りた畑を耕すようになり、行ったり来たり生活を1年ほど続けていったそうだ。

とはいえ、田舎暮らしは、スロライフというキャッチフレーズを持つイメージほどゆったりとした日々が待っていたわけではなかった。百姓仕事は、朝早く出かけて、日が暮れるまでくたくたに働いて、ようやく農作物の命が育っていく過酷な作業。ただ、陽が上って働いて、陽が落ちて眠りにつくという時間の流れ

は、人の体の巡りを自然な状態へ返らせてくれるのだろう。

「大阪での暮らしでは、暗くなっても家に帰りませんでした。だけど、ここでは夜暗くなったら、家族みんなが家にいて一緒にご飯を食べて、一緒に寝るという時間がある。当たり前ですが、その`当たり前。に、今はすごく幸せを感じています」と、崇さん。そして、真季さんは「春になれば花が咲き、夏には草が生えて、秋に枯れたところに、冬に雪が積もって、また春に花が咲いてくる。これまで、こんなにしっかりと季節を味わったことはありませんでした。きっと贅沢に時間を過ごすというのは、こういう時の流れを感じることもなんだなと思います」と語る。

都会や田舎のどこに住すれば、幸せな生活が送れるかは、その人次第だ。ただ、その模索をするのは必要なこと。長い時間をかけて行ったり来たりした平井さん夫婦は、その間、自分たちの人生観やライフスタイルを焦らずゆっくり見つめ直し、そして正直に選択をした。

私たちの`暮らし。に必要なことは、そうやって今の生活を見つめ直し、自分の生き方に正直になることなのかもしれない。



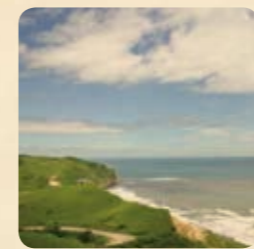
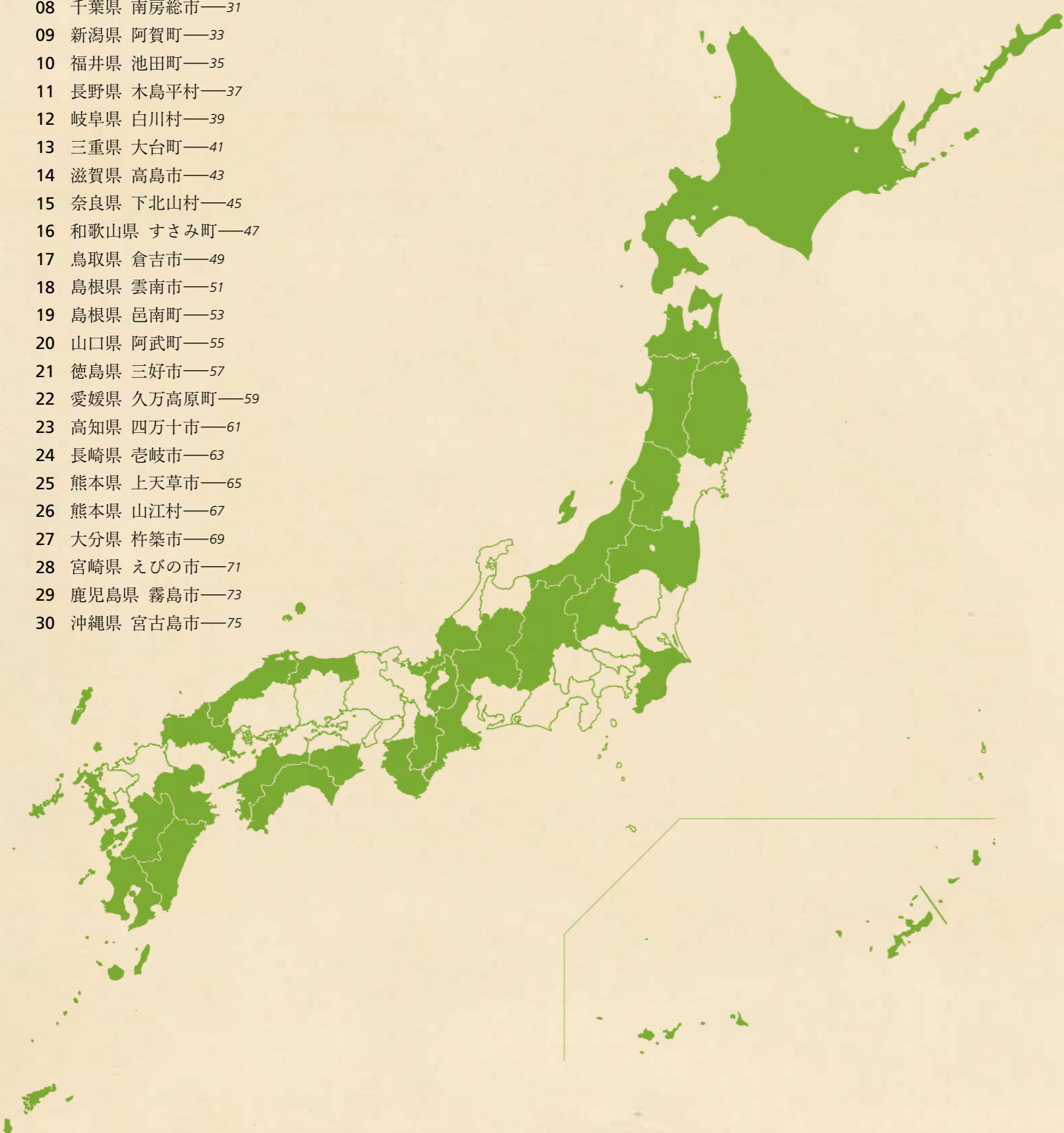
百姓仕事という、正直な暮らししかた。

平井崇さん(36歳)、真季さん(31歳) 滋賀県高島市在住



ようこそ、我が町へ

- 01 北海道 浦幌町—17
- 02 青森県 平川市—19
- 03 岩手県 久慈市—21
- 04 秋田県 鹿角市—23
- 05 山形県 金山町—25
- 06 福島県 川内村—27
- 07 群馬県 片品村—29
- 08 千葉県 南房総市—31
- 09 新潟県 阿賀町—33
- 10 福井県 池田町—35
- 11 長野県 木島平村—37
- 12 岐阜県 白川村—39
- 13 三重県 大台町—41
- 14 滋賀県 高島市—43
- 15 奈良県 下北山村—45
- 16 和歌山県 すさみ町—47
- 17 鳥取県 倉吉市—49
- 18 島根県 雲南市—51
- 19 島根県 邑南町—53
- 20 山口県 阿武町—55
- 21 徳島県 三好市—57
- 22 愛媛県 久万高原町—59
- 23 高知県 四万十市—61
- 24 長崎県 壱岐市—63
- 25 熊本県 上天草市—65
- 26 熊本県 山江村—67
- 27 大分県 杵築市—69
- 28 宮崎県 えびの市—71
- 29 鹿児島県 霧島市—73
- 30 沖縄県 宮古島市—75



01



02



03



04



05



06



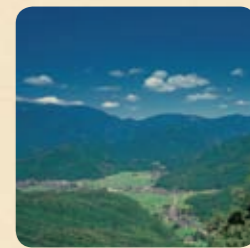
07



08



09



10



11



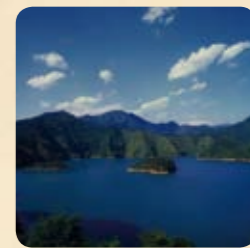
12



13



14



15



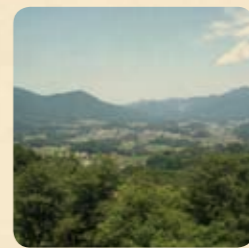
16



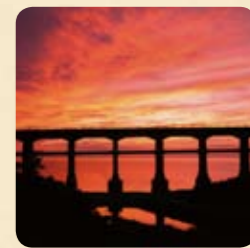
17



18



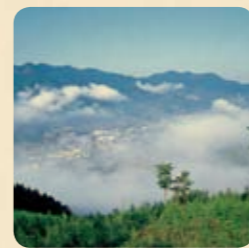
19



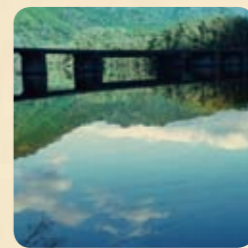
20



21



22



23



24



25



26



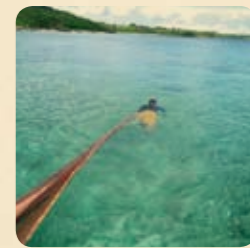
27



28



29



30



生きる力が育つ町

北海道浦幌町

ほっかいどう・うらほろちょう

「自宅の敷地が広いから、冬の雪かきはとても大変なんです。だけど、何も言わなくても、近所の人を除雪機で勝手に雪かきをしてくれる。とにかく、ここ的人是面倒見が良く優しいです」。3年前に、隣町の幕別町から家族とともに居住したアブラハム・リーさんはこう話す。さらに、浦幌町の魅力について「食生活が変わったこと。大きな庭を持たことで家庭栽培や鶏を飼育できるようになりました」と付け加えた。

新鮮な野菜や卵がすぐに手に入り食べられる。鶏をさばいて肉を食べ、酪農家の友人が届けてくれる牛乳を飲み、最近ではヨーグルトすら自前で作るようになった。浦幌町への居住で、身も心も一変して健康になることができたという。浦幌町は、北海道十勝支庁管内の最東端に位置し、総面積が729.64km²もあるとても広大な町。町の中央部に流れる延長87kmの浦幌川などの流域部において農業が行われるほか、畑作や畜産、漁

業、そして町域の70%以上を占める山林を利用した林業など、第一次産業が盛んだ。その広大な土地が生んだ食料自給率は2,900%を誇る。まさに食の町。さらに、全国でもトップクラスの日射量は「十勝晴れ」と呼ばれる晴天が多い気候を生み出すため、「十勝ブランド」とも称される優れた農産物や漁獲物を産出する。山や海、川、土といった自然のすべてとともに生きる農山漁村の暮らしは、人の「生きる力」を育てる最適の

環境だといえる。

『うらほろ子ども農山漁村交流プロジェクト』の岡田愛敬さんは、その力の大きさを日々実感しながらこの浦幌町で生きてきた。「大阪から高校生たちが来たとき、引率した先生が『生徒が都会での態度と一変して真面目に過ごしている、とおっしゃっていたんですが、やっぱり人間は土を踏まないダメですよ。土は柔らかい。それは、必ず足の裏に伝わる。だから、子供たちも本来の姿に戻ることがで

きたんだと思います」。

同時に、そんな子供たちとふれあうことで「私たちが元気になるし、学ぶ点も多い。交流によって新たに生きる力をいただいています」と語る。

人と自然との親密なコミュニケーションは、老若男女を問わず、私たちが健康にする。理屈ではなく、土を踏み、自然から学べば、私たちは本来の自分自身に戻ることができる。浦幌町の大自然は、そんなことを教えてくれる。

data

北海道十勝支庁管内の最東端に位置し、東は丘陵山脈、南は太平洋に面しており南北に長く、地形は緩やかな丘陵地と河岸段丘からなる。町の中央部を延長87kmの浦幌川が流れ、下頃辺川、静内川、浦幌十勝川と合流して、地味良好な耕地を作り太平洋に注いでいる自然豊かな町。

●人口…5,818人/世帯数…2,488世帯(2009年5月31日)

●交通…羽田空港よりとちか帯広空港へ約1時間35分、とちか帯広空港から車で約1時間。羽田空港より釧路空港へ約1時間35分、釧路空港から車で約1時間10分

「交流居住」施策の概要

短・長期の各種体験プログラムの実施拠点とした民泊施設『北のサザエさん家』を2007年より開設しているほか、町の自然や文化にふれる機会を作るNPO法人『日本のうらほろ』と連携して、浦幌町ならではのライフスタイル「うらほろスタイル」の提案などを行っている。また、都市生活者にとって第2の故郷となるべく、新しい都市と農山漁村の信頼関係を築くための施策を展開する中で、浦幌町民の交流居住に対する意識の向上を図っている。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] 〆ちよこっと、田舎暮らし

北のサザエさん家

浦幌町での定住や交流、また現地視察のために利用できる交流施設。疑似町民体験のために用意された各交流プログラムの拠

点として開放され、短・長期の宿泊が可能のため、宿泊者に合わせた受け入れ態勢を整えている。1泊2日で一人3,000円。



[短期滞在型] 〆ちよこっと、田舎暮らし

うらほろ子ども農山漁村交流プロジェクト

農家をはじめとする一次産業への民泊を体験できるプロジェクト。大自然の中で生きる動物はもとより、毎日成長する作物と向き合うことで、子供たちに命

の尊さを伝えるほか、農山漁村の人、暮らしとのふれあいを通じて、都市と田舎の多彩なコミュニケーションを図っている。





02

働き者が暮らす、緑の町

青森県平川市

あおもりけん・ひらかわし

平川市は、『ねぶた祭り』で有名な場所。毎年8月には、世界一の大きさのねぶたを見に、全国から大勢の人が集まっている。そんな夜の印象の強い平川市内を車で走ると目に飛び込んでくるのが、『農村風景100選』に選ばれた『サワラの生け垣』。隣接する家々の生け垣と庭の緑が幾重にも重なり、長い場所では約3kmに渡って沿道を彩っている。春から夏にかけて、生け垣を刈り込む際に漂う、緑の匂いがこの町の風物詩。

市の一部が『十和田八幡平国立公園』、『黒石温泉郷県立自然公園』、『大鰐^{おおわに}碓^{いかり}ヶ関温泉郷県立自然公園』にも指定されており、7割が国有林であることからその緑の豊かさがうかがえる。そして、その奥にはどっしりとした白壁の土蔵が立ち並び、懐かしい農村風景が広がる。平川市は、農家蔵の所有率が日本一の地域。さかのぼること津軽藩の時代から、蔵を建てて、やっと一人前の農家と見なされたそうだ。現存する蔵

の数は334棟。現在のものは、繁栄の象徴として戦後に建てられたものが多いという。「金屋に行くのは大変だけど、金屋からは嫁、婿もらえ、という言い伝えが未だにあるんです。ここ平川市金屋地区の人たちは、働き者で有名なんです」と笑いながら話すのは、企画財政課の小田桐功幸さん。しかも、そのがんばりは、蔵を建てるためでもあったという。長い時間を重ねて、人々の気質が育まれたエピソードだ。

「交流居住」施策の概要

NPO法人『尾上蔵保存利活用促進会』が中心となり、グリーンツーリズム事業を行う。農業立地の町ならではの経験をしてもらうために、農家蔵の保存と利活用を促進。蔵めぐりやファームステイ、田んぼをキャンパスに見立てて、稲の色を変えて文字を書く「アート田んぼ田植え体験」などを行う。ファームステイでは、農家主体であることを心がけ、地域全体で地域づくりを行っていく意識を育てている。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] 〆ちよこっと、田舎暮らし

特定非営利活動法人 尾上蔵保存利活用促進会

農家の暮らしを通じて、食と農、について考えるきっかけをつくるために、ファームステイや農業体験を実施。同時に、金屋地区の78棟の農家蔵の保存を促進し、40棟が国登録の有形

文化財に指定されている。この地域資源を活用しながら中高生・中高年世代の受け入れも行っており、旅行商品化に向けてモニターツアーも実施中。受け入れ農家数は75軒に上る。



「生まれも育ちもここですが、離れたいとは思いませんね。せかさなくていい場所です」と語る。グリーンツーリズムを行う佐藤正彦さんは、「グリーンツーリズムは、観光、ではなく農業を理解してもらうための教育。生の甘いアスパラガスを食べ、一緒にご飯を作り、こうした当たり前の農家の暮らしを体験してもらいながら、同時に地域の特性を伝えることが、食と農、への理解が深まり、地域の活性化に繋がるん

じゃないかと思います」と語り、地域ならではの資源として、蔵の保存に力を入れている。食べものが、どこから来て誰の手を経たのか——。食と農、の大切さを伝え、その想いが当たり前となる人を増やすために、働き者、たちは、町の10年、20年先を見つめて、グリーンツーリズムを行っている。こうした人々がいる限り、この町の魅力は緑とともに衰えることはないだろう。

data
平川市の気候は日本海側気候に属しているが、八甲田山や岩木山など四方山々に囲まれているため、1年を通じ安定した温暖な気候。温度差が少なく、寒さの厳しいとされる青森県内では最も恵まれている地域。平地では水稲、標高20~300mの丘陵地では、市を代表する特産品であるりんごの栽培を行っている。毎年8月には、世界一の大きさの扇ねぶたが出陣する『ねぶた祭り』を行う。
●人口…34,512人/世帯数…11,087世帯(2009年6月末現在)
●交通…青森空港より車で40分。JR弘前駅より、弘南鉄道弘南線で約15分、または『弘南バス』で約30分



03

海、山、里をつなげる人々の優しさ 岩手県久慈市 いわてけん・くじし

久慈市は山・里・海に抱かれた場所。「せかせかした人の少ない、おっとりした土地柄ですね」と、交流促進課の鈴木沙織さんは言う。東に日本有数のリアス式海岸である三陸海岸、西に広がる山々には白樺林やブナの原生林などの広葉樹林帯が続く。高原部分には牛のための放牧地が広がり、美しい山里の景観を作り出している。「隣近所のつきあいも密ですし、私の家に関しては野菜や魚を買うことはあまりないですね。

近所の人や親戚から分けてもらいます」と鈴木さんは笑う。

主な産業は一次産業である農林水産業。岩手県の木炭生産量（黒炭）は全国第1位。中でも久慈市は県内1位の生産量だ。また、ほうれんそう、米、きゅうりの農産物、まぼろしの牛、といわれる短角牛が特産品。1990年代前半までは県下トップの水揚げ量を誇った漁業も元気が良い。海や山が近く、土地の利を生かした一次産業が盛んだ。

久慈市では『団塊世代誘致促進チーム』を設置。2泊3日の短期ツアー『楽しくて、おいしいスローライフ体験ツアー』を実施したほか、団塊世代向けサイトも立ち上げた。これまでのツアーでは、海を活かした浜料理体験、はし作り、まき割り体験、ウサギ追い、洞窟探検など久慈市ならではのメニューを準備した。参加者はこれまでに経験したことのないメニューに驚きつつも、久慈市の自然の魅力に惹かれていった。

「交流居住」施策の概要

2006年より「観光・交流から定住へのまちづくり」を目指した団塊世代定住促進プランを展開。田舎暮らしに興味のある人や定住希望者に情報提供を行う。団塊世代向けサイト『情報交流ナビ・Kターン』では、田舎暮らし、体験などの情報が満載。空き家情報、暮らしのサポート情報を提供。久慈市の魅力をより具体的に知ってもらうために、交流促進課では『楽しくて、おいしいスローライフ体験ツアー』を実施。古くから伝わる食文化を体験できる郷土料理体験や手作りの良さに触れるものづくりが体験できる。

<http://www2.city.kuji.iwate.jp/kouryu/>

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] まぼろし、田舎暮らし

楽しくて、おいしいスローライフ体験ツアー

リアルな久慈市を見ることができる大人のための社会見学。首都圏から団塊世代を招き2泊3日の日程で「海・山・里の魅力」を体験してもらうツアーを開催。2008年は海の産業を知ってもらうと、定置網漁の水揚げ見

学や浜料理などの体験ツアーを開催し、地元の人たちとの交流を深めた。最終日には短角牛肥育農家や山村文化を守る『バッテリー村』見学を行い、田舎暮らしについての意見交換が行われた。



団塊世代だけでなく若い世代の移住例もある。「やりたかったことを、やらなければ悔いが残るからね」と話すのは、2008年に久慈市に移住した石川明博さん。石川さんは働き盛りの50代前半。関東で四代続く建築会社の後継者として働いていたが、自分の道を30代の頃から模索してきた。「決め手は自然の豊かさ、久慈市の人たちの優しさ。支援制度が整っていたので、相談相手が多かったことは大きい」。移住当初は農業をや

りながらの生活を考えていたが、これまでの経験を買われ、地元の建築会社に勤務している。「妻が小さな畑をはじめました。近所の農家の人にいろいろ教えていただいているようです」と楽しそうに話す。

豊かな自然がある場所で、人と自然と向き合う。久慈市を訪れ、自然や人の深い部分にふれあうような滞在ができれば、きっと、新しい人生の幕開けを後押ししてくれるものに出合えるだろう。

data

久慈市は、「山・里・海」といった大自然に抱かれた地。東に三陸海岸、西には深い山々が続く。山には白樺林、ブナの原生林などの広葉樹林帯が季節ごとの美しい表情を見せてくれる。高原には牛のための放牧地が連なり、美しい山里の景観をつくる。

●人口…37,768人/世帯数…15,015世帯（2008年2月1日現在）

●交通…東北自動車道九戸ICより40分。東北新幹線八戸駅下車、JR八戸線に乗り継ぎ1時間47分



背筋を伸ばして、森で深呼吸を 秋田県鹿角市 あきたけん・かづのし

秋 田県の名産「きりたんぼ」の発祥地であり、日本三大囃子のひとつに数えられる『花輪ばやし』が有名な歴史ある町、秋田県鹿角市。全国屈指の景勝地『十和田八幡平国立公園』を南北に抱え、八幡平温泉、大湯温泉、湯瀬温泉などの有名な温泉郷が数多くある、森と水に恵まれた場所だ。

その豊かな自然の中にある『森林セラピー基地』には、多くの人が参加している。`森林セラピー、とは、森の癒し効果を心と身

体の健康づくりに生かした、自然療法のひとつ。森の中でセラピーロードを歩いたり、フィットネスを行ったりする、五感を使ったプログラムだ。「田舎暮らし」というと農業体験が主になることが多いですが、`暮らし、となるとそれだけではもの足りない。『森林セラピー基地』や温泉が、ここでの暮らしの潤いになってくれたらいいですね」と話すのは、観光交流課の本館匠さん。同市では30代半ばの若手メンバー10名が集まっ

て、2007年度よりこうした地域資源を活用した交流居住施策を進めている。

埼玉県在住の前嶋夫妻は、移住歴6年。前嶋万人さんの定年退職を機に、妻の和歌子さんの実家である鹿角市に、春から秋にかけて移住するスタイルで交流居住を実践している。「ここでの暮らしの大部分は、史料館の整理と野菜づくりです」と語る万人さんは、たまたま家を掃除していたところ古文書を発見し、「これは若い人に

「交流居住」施策の概要

「出逢い賑わい夢をかなえるまち・鹿角」をスローガンに掲げ、一人ひとりが主人公として暮らせる街を目指して2007年度から交流居住施策をスタート。『森林セラピー基地』の整備のほか、『かづの「田舎のねじろ」宅地建物データバンク』の整備と情報公開を中心に、登録物件の利用者による修繕費の奨励事業、登録物件への短期滞在などを実施。モニターツアーを行うなど、新たに地域の外から訪れる人の目線を大事に、施策を展開している。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] `ちよこっと、田舎暮らし

森林セラピー基地

森林の持つ「癒し効果」を科学的に解明し、血圧低下、脳の働きを沈静化させるなど、健康増進やリラクゼーション効果への活用を図る。5種類の森林ロードがあり、ウォーキングやフィットネスなどを行うことができる。希望

者には、地元の人から成る「かづの森林コンダクター」によるガイドツアーも実施。『かづの森の癒しの宿』では「きりたんぼ」などの郷土料理や解毒効果のある野菜やハーブなどを使った薬膳料理を味わうこともできる。



[往來型] `行ったり来たり、田舎暮らし

かづの「田舎のねじろ」宅地建物データバンク

鹿角市宅地建物データバンク『田舎のねじろ』を整備し、居住可能な物件情報を公開。現在、20ヶ所が登録中。また、この登録されている物件を購入もしくは賃借した市外在住者を対象に、修繕などを行った経費に対して

奨励金を交付(限度額50万円)。登録物件に短期滞在することもでき、実際に暮らしながら移住物件を探すことができる「暮らし体験支援事業」も実施している。1泊1人2,000円(2泊以上7泊以内)。



も見せてあげたい」と現在『渡部家史料館』として家を無料公開している。築100年を越える母屋などが、2006年に国の登録有形文化財に登録された。「この辺りの子供たちは、`お邪魔します!、と勝手にやってきて、家の中や庭でかくれんぼなどをして遊んでいくんです。こうした子供たちが大人になっていくのを見るのが楽しみのひとつです」とにこやかに話してくれた。

一方、「春の山菜は、向こうか

らやってくるから、旬の幸には困ることがない」と鹿角市の魅力を語る和歌子さん。かつて、この地域では武士も農家も一緒になって、盆踊りなどのお祭りに興じる文化があった。史料館にあるぼろぼろに使い古された祭りの衣装は、その証だ。

年齢や立場を超えて、ともに暮らす。町の人々の自然なやりとりは、100年の時を越えて、今も、しっかりと息づいている。

data

北東北3県のほぼ中央に位置することから、秋田県内以外に、弘前、盛岡などへ車でそれぞれ30分ほどで行くことができる。『十和田八幡平国立公園』や八幡平温泉に代表される数多くの温泉などの自然環境にも恵まれ、「鹿角りんご」「北限のもも」「かづの牛」など、農産物が豊富。また、日本三大囃子のひとつに数えられる『花輪ばやし』の豪華絢爛な10台の神輿は必見。

●人口…35,944人/世帯数…13,383世帯(2009年5月現在)

●交通…JR盛岡駅からJR花輪線で1時間40分、または高速バス『みちのく号』で1時間25分



05

美しい風景を守り続ける町 山形県金山町

やまがたけん・かねやままち

金山町は山形県の北東部に位置する山に囲まれた静かな町。文明開化期の日本を旅したイギリス人女性イザベラ・バードは著書『日本奥地紀行』の中で「非常に美しい盆地を旅し、その麓に金山の町がある。ロマンチックな雰囲気のある場所である。私は正午にはもう着いたのであるが、一日か二日ここに滞在しようと思う」と記している。彼女の旅した当時の町の趣はいまだに残っている。町を歩けば至る所で美しいたたずま

いの『金山型住宅』に出会う。『金山型住宅』とは、白壁と切り妻屋根をもつ、在来工法で建てられた住宅。白と黒（焦げ茶）のコントラストが美しい町並みは、周囲の自然と調和した落ち着いた雰囲気を醸しだしている。「金山町では昭和58年度策定の『新金山町基本構想』の中で『街並み（景観）づくり100年運動』を基幹プロジェクトとして位置付けし、推進しています。これは100年をかけて自然（風景）と調和した美しい町

並みをつくり、林業等の地場産業の振興や人と自然の共生を図る目的があります」と総務課の神沼幸希さんは話す。山を越えた所に、このような美しい町並みが突如現れる。イザベラ・バードも驚いたにちがいない。その『金山型住宅』を利用した宿泊施設に、移住希望者は短期滞在することができる。「元助役が使っていた家をリフォームしました。周囲には面倒見のいい人が住んでいるので、野菜を分けてもら

「交流居住」施策の概要

春夏秋冬で印象の違う姿を見せてくれる金山町での暮らしを体験するために『金山暮らし体験住宅』での生活を推奨。以前は町の助役が使っていた家で、町の中心部に立つ。周囲の家の人々は『金山暮らし体験住宅』を利用して町を訪れる人を心待ちにしており、町が介入しなくても自然発生的に交流がはじまるという。周囲には歩いて散策できる施設や公園がある。移住し、「金山町街並み形成基準」に応じた建物に住む場合は助成金の交付を受けることが可能。

目的別滞在タイプ

【短期滞在型】^〆ちよこっと、田舎暮らし

金山暮らし体験住宅

いきなりの移住には不安を感じる人向けに、50歳以上の方と家族限定で『金山暮らし体験住宅』が利用できる。以前は助役が使っていた瀟洒な家屋。3泊～1ヶ月まで。1人1泊1,500円、2人目からは1泊500円、小・中

学生半額、幼児無料。光熱水費込み。シーツ・布団カバーのクリーニングは実費負担（一組800円）。希望により町民や既に移住している方との交流会を開催するほか、農業体験などのメニューも充実（費用別途）。



【ほぼ定住型】^〆どっぷり、田舎暮らし

助成金の交付

町並み保全の一環として「金山町街並み形成基準」に合致した建築物などに対して助成を行う。住宅の場合は最高50万円。住宅だけでなくガレージや小屋の場合にも補助金が交付される

（最高20万円）。さらに移住者限定で新築、建て替え、リフォーム（借入が条件）をする場合、最大3年90万円（30万円×3年間）の「利子補給補助金制度」を利用することができる。



ったり、いろんな相談にのってもらったりと、地域の人との交流が自然発生的に生まれていますよ」と総務課係長の川崎勉さんは笑う。「2009年度は半年で16組、50人ほどが利用しています。年に4度利用するリピーターの方もいます。まずは来ていただいて、町のことをよく知ってもらいたい。そして、それが移住へとつながると良いですね」。事業開始の2006年からこれまでに3組6人が金山町に移住を決めている。町が把握している

空き家が約50軒あり、住宅事情も問題はない。ユニークなのは町が「金山町街並み形成基準」に合致した建築物などに対して助成してくれるところ。町並みに馴染んだ家に住めば、町の人々の受け入れ方も早いだろう。町には水路が行き交い、鯉がゆうゆうと泳いでいる。道や水路が交差する風景から、人と人の距離が近い印象を受ける。イザベラ・バードの感じた良さが今もなおこの町には残っている。

data

金山町は山に囲まれた静かな町。1982年に全国に先駆けて施行した情報公開制度『公文書公開条例』をはじめ、町民が誇りとする美しい景観の保持・創造や地域産業の活性化を目的とした『街並み景観条例』を制定し、『街並みづくり100年運動』に取り組み、「誰もが住みたくなくなる町、住んで良かったと感じられる町」を目指している。
●人口…6,669人/世帯数…1,829世帯（2009年3月31日現在、外国人含む）
●交通…JR山形新幹線・奥羽本線新庄駅下車、山形交通バス金山行きで40分。仙台市内から国道48号線で東根を経由し、国道13号線で2時間30分



06

第二のふるさとを探して 福島県川内村

ふくしまけん・かわうちむら

仙台と東京を結ぶちょうど中間地点に川内村がある。村は海からは遠く阿武隈高地に位置する。気候は北関東地方とほぼ変わりなく、年間を通じて温暖。耕作地面積は5%と少ない。村の大部分を占めるのは豊かな山林だ。山林は村の重要な森林資源であると同時に、村民の誇りである雄大な自然環境を形成している。最近になってライフスタイルの見直しや森林へのあこがれから県外からの移住者が少しずつ増えていると

いう。

「移住者をサポートしているのが『元気な川内をつくる会』という組織。体験、交流、地域の資源掘り起こしをテーマに3つの事業を展開してきました」と川内村総務課課長の井出寿一さん。『元気な川内を創る会』はその取り組みが認められ、2008年度の過疎地域自立活性化優良事例表彰で総務大臣賞を受賞した。この賞は地域の特色や資源を活かし、地域の活性化に貢献している団体に贈られる

もの。『元気な川内を創る会』では農楽塾を開設し、都市に住む参加者に田植えから収穫まで有機米の栽培を通じた食育活動や、野生キノコの指導者養成講習会や案内人の育成などに取り組んだ。また、村の特産品として地酒『天山十三夜』や『川内高原うどん』を開発、商品化につなげたことなどが評価され、受賞に至った。

「農業体験を通じて、川内村をふるさとのように感じて欲しい。農業体験してもらおうと、都会の人か

「交流居住」施策の概要

まずは村のファンになってもらい、リピーターになって欲しいと村は考えている。実際に川内村を知るきっかけは『元気な川内を創る会』の農業体験参加が多い。農家と一緒に作業することによって、農業の大変さ、喜びを知ってもらう。作業の後はおいしい料理が振る舞われ、宴会になることも。人と人の近さが、川内村の魅力のひとつ。参加者の多くは「第二のふるさと」のような気持ちを持ち帰る。村の特産品づくりのため小麦や古代米の栽培を復活させ、うどんや古代米を原料にした地酒を開発し、商品化に繋げている。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型]「ちょこっと、田舎暮らし

元気な川内を創る会

「体験」、「交流」、「地域の資源掘り起こし」の3事業を進めている。「体験」、「交流」では村を知ってもらうため、年5回ほどの『農楽塾』（会費：1家族1万円1年間有効）を通して都市部の人に滞在してもらう。「地域の資源掘り起こし」は、もともとある村の特産品を使った商品開発を行う。「野生キノコ」の地域資源を活かして、『野生キノコ指導者養成講習会』では

野生キノコ案内人を養成している。村の特産品として地酒『天山十三夜』や『川内高原うどん』を開発。今後の川内村ブランドの確立に期待が集まっている。また、『元気な川内を創る会』はやる気のあるボランティア精神の強い人たちの集まり。この会を通して、村への理解を深めていけば多くの村人と知り合うことができる。



らいろんなことを学ぶね」と農楽塾塾長の秋元美誉さんは言う。最近ではかわいいお孫さんに食べさせたいという一心から有機農法にも積極的に力を入れている。秋元さんはアイガモ農法で米を作り、その後のアイガモをソーセージやつみれにして販売するアイデアマン。柔軟な発想を持つ秋元さんにはファンが多く毎年のように農楽塾を訪れる人もいるのだとか。これらの取り組みが契機となり、現在では約60世帯、140人のIター

ン者を受け入れている。「だけど、いきなり農業で食べていくのは難しい。仕事もそんなにはない。定住するなら、自分の考えに基づいて仕事を作る人でないとね」と『元気な川内を創る会』代表の井出茂さんは指摘する。「これからは、子育てするなら川内村だよなと思われよう環境をみんなで作っていききたい」。

川内村は小さいがアイデアや人材が豊富。今後、どのような変化をしていくか目が離せない村だ。

data

川内村は福島県相双地域に位置する。南北を阿武隈高地が連なる緑豊かな小高い里山に囲まれている。村の平均標高は約456mと高いために耕作面積は少なく、古くから林業が盛ん。人口3,000人あまりの村に約60世帯、140人ほどのIターン者を受け入れている。いわき市生まれの詩人・草野心平は川内村を愛し晩年、足しげく通った。

●人口…3,108人/世帯数…1,140世帯(2009年7月22日現在)

●交通…常磐自動車道富岡I.Cから県道36号經由25分、磐越自動車道船引三春I.Cから国道288号經由50分。JR常磐線富岡駅からバスで1時間



07 壮大なスケールを誇る、尾瀬の郷 群馬県片品村 ぐんまけん・かたしなむら

「夏がくれば思い出す はらかな尾瀬 遠い空」(作詞・江間章子)

これは、有名な『夏の思い出』の歌い出しだ。一度でも尾瀬を訪れたことがあれば、この歌詞の通り季節の訪れとともに遙かな尾瀬の風景に想いを馳せることだろう。

2007年『尾瀬国立公園』に指定された尾瀬を有する片品村。新潟県、福島県と3県にまたがる尾瀬だが、都心から一番近い片品村には多くのハイカーが訪れる。「昭

和30~40年代の登山ブームで、たくさんの人が尾瀬に入った。そのため自然が荒らされてしまったんです。その経験があるから、環境保護には力を入れています」。むらづくり観光課の萩原明富さんがそう語るように、大自然との距離が近い片品村では、環境への関心や配慮が浸透している。

尾瀬をはじめ、『日本百名山』の至仏山、武尊山、白根山を有する片品村では、山岳ガイドと一緒に自然を楽しむことを勧めている。

なぜなら、自然の中でのマナーを知ってもらうことで環境保護に繋がるからだ。「移住してガイドをしている人は多いです。今は小中学生を受け入れる『尾瀬学校』もありますし、毎年8月『尾瀬の日』を記念しハイキングツアーを行います。そのような時にガイドは必要。需要は高いです」。雪解けが始まる時期から雪を纏うまでの間はガイドとして、そして冬はインストラクターというスタイルも、片品村ならではのスタイル。

「交流居住」施策の概要

尾瀬や山岳、丸沼・菅沼の湖水、また9つの温泉郡と7つのスキー場を有する立地、また寒暖の差があるため高原野菜やりんご栽培が盛んだ。自然環境に恵まれているため、片品村の自然の資源を活用したグリーンツーリズムや体験学習などは、主に農協が窓口となり実施している。また、3人目以降の出産に祝い金30万円の支給、チャイルドシードの貸出し、そして中学生までの医療費無料化を実施し、家族での移住希望者にとって嬉しい施策もある。

目的別滞在タイプ

[往來型] 〆行ったり来たり、田舎暮らし

オゾンシアター

劇団スクール『オゾンシアター』。毎週土曜日全16回ほどのスクールで、演劇を学びたい大人や児童も募集する予定。年末に片品村文化センターでの舞台披露を目標に、同時に片品村にふれ

て体験してもらおう目的もある。過去3年は県内の参加者がほとんどだったが、舞台本番では約800席の文化センターが埋まるほど盛況をおさめた。



[短期滞在型] 〆ちょこっと、田舎暮らし

愛野良イベント

独身者同士の出逢いの場となる、愛野良バスイベント。男性参加者は片品村内に限定。2008年11月に1泊2日で実施したイベントでは、首都圏まで片品の男性がバスで女性参加者を迎え

にいき、その後片品村でりんご収穫や郷土料理づくり、民宿でのパーティーを開催。2009年には、参加者の年齢層を30~40代に絞り実施予定。



新たに発足された『ふるさと交流推進協議会』が主催となり、2008年秋、ユニークな『愛野良イベント』が実施された。独身者同士の出逢いの場を設けようというイベントだ。男性は片品村限定に対し、女性は全員が県外から参加し、農業体験などを楽しんだ。「参加者の方からは高い評判をいただきました。今度は宿泊施設からも企画を募集し、共同企画として年2回ほど計画しています」。近い将来、高原での出逢いが実を

結ぶかもしれない。

片品村の水道水を一口飲むと、すぐ違いに気づく。ここではすべて湧水を使用しているからだ。前橋市に1年住んでいた萩原さんも、まず水道水の違いに驚いたという。「全然違うと思いましたよ。やっぱり、片品の水は美味しい」。そう誇る片品の名水は、環境省認定の『平成の名水百選』のひとつ。良質な清水で潤う、尾瀬の郷。壮大なスケールの麓で、心まで潤う暮らしを叶えてみたい。

data
群馬県北東部の最奥地に位置。『天空の足湯』のある丸沼高原スキー場やキャンプ場でもある武尊牧場は夏期も楽しめる。名水と自然環境の中で生産加工された、花豆や片品そば、どぶろくなどの『尾瀬ブランド』が人気を呼んでいる。
●人口…5,381人/世帯数…1,722世帯(2009年7月末現在)
●交通…練馬ICより車で約2時間



08

7つの福がある町

千葉県南房総市

ちばけん・みなみぼうそうし

東京湾を右手に見ながら房総半島を南下していくと、ヤシの木やハマナスなどが増え、ゆるやかな空気が流れはじめる。南房総市は、2006年に富浦町、富山町、三芳村、白浜町、千倉町、丸山町、和田町の7つの町村が合併してできた町。『七福膳』という各7つの町村の特産物を盛り込んだ料理を名物とするなどの、海と山に恵まれた自然豊かな市だ。また、少し沖に潜ると、きれいな海にしか生息しないサンゴが見ら

れる贅沢な地域。そんな南房総市を「ずっと住んでいるよりも、一度外へ出て帰ってくると良さが分かる」と話すのは、企画政策課の佐藤砂織さん。自身も東京で暮らしたことがある、Uターン者だ。都会と田舎の魅力を分かっているからこそ、南房総市を「7つそれぞれの旧町村の田舎の魅力があるだけに、市として絞ったアピールポイントを作っていくのが難しい」とその大変さを語る。

早川浩平さんは、子供が生まれ

たことを機に、以前からの夢であったガラス職人としての生活を築こうと、千葉の都市部から移住してアトリエつき住居をこの地に構えた。「都会で暮らしている頃から、人は自然と共生して生きるべきという思いがあった。それが家族でできるのは素晴らしいこと」と話す早川さんの近所で『自然の宿 くすの木』を運営する北見和美さんは、「定住するのは簡単じゃない。でも、なるべく多くの人にこの土地の良さを体験してもら

「交流居住」施策の概要

60万円を上限とする『住宅取得奨励金交付制度』のほか、交流や地域活性化などを目的とした市民活動団体に対して、事業費の一部を補助するなどの支援を行っている。また、2007・8年度には県の市民活動団体への助成事業を受託し、市としてグリーンブルーツーリズムを推進。豊富なメニューで、地域の多様性を活かしながら海・山・農業・伝統的な遊びなど様々なジャンルでの体験ツアーを開催している。定住希望者用窓口の開設も進めながら、まずは南房総へ来てもらうことを目的に、企画政策課・観光プロモーション課とともに地域資源の有効利用に取り組んでいる。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] ＊ちよこっと、田舎暮らし

自然の宿 くすの木

南房総市の体験交流施設であるこの宿は、大きな天然記念物のくすの木に隣接することから名づけられた。上三原地区にあった小学校の廃校をきっかけに、1997年にオープン。以後、1泊

2食つき5,250円で宿泊ができ、市内外のボーイスカウトや子供会などが利用。近くの川でホタルを見たりなど自然体験が充実している。宿泊客の4割はリピーターで、子供連れが多い。



[短期滞在型] ＊ちよこっと、田舎暮らし

ネイチャースクールわくわく WADA

2000年にスタートした、行政とNPOが協同で運営する都市農村交流プロジェクト。水と緑に囲まれた自然の中で「干物づくり」「炭焼き体験」「くじら料理教室」など、社会人・大学生

向けの講座を定期的で開催している。南房総市内外から専門の講師を招き、座学も取り入れるなど、体験と知識がしっかり学べる内容が多い。2005年にNPO法人化した。



えれば」と言う。南房総市はグリーンツーリズムの実施が多く、北見さんはこれらを企画するNPOの理事長も務めている。「宿泊しながら田舎の良さを味わってもらいたい」という思いで、廃校になった小学校を部分改築しながら、ツーリズムの拠点として運営している。早川さんと同じく、に田舎で暮らしたいという夢を持ち、退職後に移住を決めた菅原文好さんはこの宿で働きながら、付近の遺跡などを巡って歴史探訪の冊子を

制作したりなど、悠々自適の生活を営む。「まず、人がいいのがこの場所の魅力。私は田舎に染まるために田舎に来たから、何の苦労もないね」と話してくれた。

田舎の良さは、田舎であること。特別な観光名所よりも、ゆったりとした海や山があるだけで、住む人にとっては贅沢な場所なのだろう。7つの恵まれた地域を持った南房総市は、町全体としての魅力を、どう活かしていくかが今後の課題だ。

data
房総半島の先端東側と、一部西側の広大な地域を占める。太平洋沖合を流れる暖流の影響により冬は暖かく夏は涼しい海洋性の温暖な気候で、一部無霜地域がある。四季折々に咲き乱れる花々などの豊かな自然資源と、古代から近代に至る遺跡や社寺などの歴史的資源もある。

●人口…43,963人/世帯数…17,062世帯(2009年4月現在)

●交通…東京駅より内房線特急で約1時間40分。高速バスや車では東京駅、横浜駅、羽田駅などから富浦ICで降り、それぞれ約1時間35分



09

『当たり前』の人間関係を大切に 新潟県阿賀町

にいがたけん・あがまち

新潟県東部に位置する阿賀町。福島、山形、新潟の3県にまたがる飯豊連峰の主峰・飯豊山(2,105m)や御神楽岳(1,266m)に抱かれた自然がいっぱいの町。町を流れる阿賀野川は福島県会津から新潟県東蒲原に流れ、川岸には奇岩・怪岩が多く変化に富む。阿賀野川は『新日本百景』のひとつに数えられている。その景色を楽しむ『阿賀野川ライン舟下り』や、泉質や効能が異なる8つの温泉は観光客に人気。毎年5月3日

に行われる『つがわ狐の嫁入り行列』、夏のふるさと祭り、秋の産業祭、冬はスキーと1年を通じて楽しみの多い町だ。「移住を考えているが、いきなり暮らすには不安があるという人は、定住体験をしてはどうでしょうか。特に冬の阿賀町を見ておいた方がよいと思います」と企画観光課の渡辺和志さんは提案する。「この地は冬場には町中で1～1.5m、山間部では2mほどの積雪のある豪雪地帯。降雪期に入る前の冬囲

い(厳しい寒さから庭木をむしろなどで守る)、屋根の雪下ろし、雪かきなどの作業が必要になります。町の人は優しく、親しみやすいと思いますよ。当たり前のことができる人ならすぐに町になじむでしょう」という。とは言え、阿賀町と都市部の『当たり前』は少し違う。町は移住希望者に一枚の心得書きを渡す。「基本的なことなんです」と渡辺さん。A4の紙に番号がふられ、①町のことを知り

「交流居住」施策の概要

定住者支援ホームページで、総合的な定住支援策を紹介。まずは町の魅力を知ってもらうために「短期でも良いから暮らしを体験してみたい」と町は考えている。定住体験住宅で過ごすことによって、観光では見落としがちな町の雰囲気やルールなどを肌で知ることができる。「雪下ろしは土地の者でもなかなか大変な作業。そういう面も含めて体験してもらいたい」という。また、空き家や不動産情報も町のホームページ上で公開している(実際の交渉・契約などは当事者同士で行う)。

<http://www.town.aga.niigata.jp/teiju/>

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] ちょこっと、田舎暮らし

定住体験住宅

いきなり暮らすには不安という人に推奨される体験住宅。暖房器具や調理器具などの生活必需品はすべてそろっている。原則として、1回の使用は13泊以下。利用者は、体験住宅や移住に関するアンケートに協力す

る必要がある。光熱水費等の実費相当額として、1泊当たり(何人でも)2,000円(12月1日から3月31日については、2,500円)が必要。寝具は3人分用意されている。



[ほぼ定住型] どっぷり、田舎暮らし

阿賀町定住奨励制度

若者の定住及びUIターン者の移住に対し助成。対象者は永住または10年以上にわたって、居住する意志をもって町内に住民登録をし、生活の本拠が町内にある人。「定住奨励」、「就職祝」、「結婚祝」、「遠距離通勤支

援」、「住宅整備補助金」などがあり、条件によって金額が異なる。例…定住奨励(単身転入2万円、家族転入5万円)、住宅整備補助金(新築の場合建築費の10%、上限50万円)。



ましよう。②地域に溶け込んでの生活が必要です。③生活設計を立てましよう。④家族は賛成していますか?と見出しがあり、それについて細かな説明が書かれている。そこにはごく普通の人間関係が記されているだけだ。しかし、その『当たり前』のことが大切なのだとは町は考えている。かつては夢見がちな「田舎暮らし」をイメージしていた人が多かったというが、最近は冠婚葬祭や草刈り、雪の作業など集落の付き合いは当然

という考えの人が多いそうだ。

渡辺さんは言う。「今の移住希望者はかなり勉強していますね。たしかに田舎は閉鎖的な面はありますが、結局は当たり前の積み重ね。人間次第といえるでしょう。移住者が壁を作らなければ必ず受け入れてもらえると思いますよ」。

定住者には「定住奨励」、住宅整備の際には「住宅整備補助金」などの定住奨励制度も実施している。町になじみ、地域の一員となる人を阿賀町では待っている。

data

阿賀町は新潟県東部に位置する水と緑の豊かな町。町の中央を阿賀野川とその支流の常浪川が流れ、沿岸の段丘を中心に開けた山間地域。面積は952.88km²で、新潟県面積の約6.8%。阿賀野川ライン下りと泉質と効能が異なる8つの温泉地がある温泉が有名。四季を通して様々なアトラクションが楽しめる観光資源の宝庫。

●人口…14,240人/世帯数…5,209世帯(2009年5月31日現在)

●交通…東京から関越自動車道で約3時間30分、磐越自動車道で40分



10

人と自然に支えられて、生きる町 福井県池田町

ふくいけん・いけだちょう

福井県東南部の山間地に位置し、足羽川の最上流地域にある池田町。見渡す限り田園風景が広がるこの一帯は、兼業も含めれば60%近くもの世帯が農業を営む自然豊かな農山村地域。夏に青々と広がる田園景色、秋には彩り豊かな紅葉で染まる山々など、四季折々の風景に包まれる大地が魅力的な町だ。また、豪雪地帯でもあるため、冬になれば、辺り一面が真っ白になる。古来より、雪深くなる冬の季節に、「水海」と

呼ばれる地域の人々が宴を開いて田楽を舞ったのがはじまりといわれる『水海の田楽・能舞』は、国の重要無形民俗文化財の指定を受けて、今なお町の人々が伝統文化として大切に継承している。それは池田町の人々がいつの時代も、自然や人と密接にふれあって生きてきた証。

「池田町は小さい町だから、みんなが地域のために過ぐすという意識が、とても大切なんです。ここには、どんな人にも役割が与えら

れていて、一緒に考えたり、一緒に働いたりしています。つまり、不要な人などいないんです」と話すのは、総務政策課の溝口淳さん。東京で働いていたが、1996年に池田町へ居住。今では、両親も呼び寄せ、家族仲良く定住しているという。「東京では生活費がすごくかかるけど、ここでは光熱費を払えば最低限生きて行くことができるほど、お金の感覚が違います。ただ、その代わりに誰かと寄り添って生きなくていけない。独りを

望まず、家族と、町の人々と生きる覚悟があれば、これほど幸せな場所はありません」。

都会で生活していた菅野愛美さんは、2009年春より池田町に居住している。きっかけは、学生時代の2004年に来たボランティア。それからずっと、なぜかこの町が心から離れなくなった。それまで都会という多くの人々が行き交う場所で働きづめだった彼女は、いつも「自分の代わりはいくらでもいる、と感じてきた。「だけど、

ここでは人が少ない分、私にしかない仕事があって、役割があります。知らないおばあちゃんが「来てくれてありがとう、って言ってくれる。今、私は私を必要としてくれる人たちと生きています」と実感できるんです」と話す。

誰かの代わりにいる人がいない生活。人は、人と自然に囲まれて支え合って生きていくもの。池田町は、そんな支え合いを大切にしている町だ。

data

福井県の東南部に位置し、北は福井市、西は越前市、東南に岐阜県と隣接している町。総面積のうち、91.7%が山林の自然豊かな町。『溪流温泉冠荘』や『能楽の里歴史館』などの文化観光施設が整備され、多くの人々が訪れる。

●人口…3,353人/世帯数…1,071世帯(2009年7月1日現在)

●交通…北陸自動車道鯖江ICより車で30分

「交流居住」施策の概要

農業生産法人を運営しながら、都市農村交流活動に取り組む『ファームハウス・コムニタ』をはじめ、人と社会を治癒する力＝農村力を学べるNPO法人『日本農村力デザイン大学』といった地域の団体や活動を素材としながら、さまざまな人々と交流する機会をサポート。また、学生や社会人のボランティア『緑のふるさと協力隊』の受け入れや、子供たちとの交流イベント『冒険隊合宿』などの交流居住体験を定期的実施するなど、地域の魅力を具体的かつ積極的に伝えている。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] 〆ちよこつと、田舎暮らし

ファームハウス・コムニタ

自然と人に優しい農業と地元作物の加工、そして農業体験やレジャーを楽しめる体験宿泊施設。農業の生産から、販売、レクリエーション体験事業と幅広く展開する中、ファームイン事業として農業体験の場所と機会を提供している。じっくり取り組む

貸し農園から、山や川へと繰り出す体験まで、さまざまなメニューを体感できる。2009年からは、若者による農業体験学校『いなかもん学校』がスタートし、通年でイベントを開催している。



[研修・田舎支援型] 田舎で学んでお手伝い

日本農村力デザイン大学

NPO法人『日本農村力デザイン研究所』が運営する学びの場。〆人と社会を治癒する力、を農村力と定義し、これを生かす力を学ぶことで、豊かな社会づくり、まちづくりのできる人材

を育成している。元来、農村が持ち続けてきた、自然、人、文化、技術の力をテーマに、2泊3日程度の各講義を年5回実施している。





11

農村文化の風吹くコミュニティの場 長野県木島平村

ながのけん・きじまだいらむら

『上 信越高原国立公園』奥地を源泉とする樽川、馬曲川の冷たい清流が村内を流れる。ロッジやペンションが立ち並ぶ木島平村は、馬曲温泉への客や冬にはスキー客でにぎわう、のどかな農村だ。

「子供のことを考えての移住でしたが、何より家を出てそのままスキーができるというのが個人的には魅力でした」と、首都圏のベッドタウンからこの村に移住した岩崎真也さんは、村の魅力を語る。

お子さんが病気になり、生活環境を変えたいという思いと、結婚当時から田舎での生活に憧れていたことを思い出し、移住を一大決心。関東エリアで田舎暮らしができる場所を色々探したが、学生時代にスキー客としてよく訪れ、土地勘もあったことから、この村で1年間の「体験居住」後、移住することを決めた。心配事は、就職先と、家族が土地になじむかということだったが、それも杞憂に終わる。仕事は都心で探し出し、妻の

美香さんが楽しみながら畑仕事や、親同士のネットワークを広げたり積極的に楽しんでいるのを見て、安心したという。美香さんは「雑誌を見ているだけでは場所の良さは分からない。まず行ってみて、その土地の空気を感じることが大事」と話す。今ではお子さんの病気も良くなり、自然の中でのびのびと育っているという。

総合政策課の岡田孝夫さんは「村内にある空き家を移住者用の住宅として再利用することが、課

題のひとつ」と考えている。清涼な空気が自慢のこの村では水やお米、農作物が美味しく、農家を目指す移住希望者から問い合わせがあると、まず「体験住宅」を薦める。近所の農家の人が野菜の作り方などを教えてくれたり、村の祭りなどに参加するうちに、自然とコミュニケーションが生まれ、住みやすい環境を自らつくっていくことが移住の大事な要素だと考えている。

この「体験住宅」の傍で畑を持

つ上野雅之さんも、子供が生まれたことをきっかけに京都から家族で移住し、現在農家を営んでいる。「自然・水・空気と生活のリズムが最高」と村にいる理由を話す。

山に囲まれた地でありながら、外の地域からの人もすんなりと受け入れてくれる、豊かな自然と人の良さが魅力の農村。木島平村は、これからの移住希望者にも、大きな懐で受け入れてくれるだろう。

data
標高約335mの扇状地が中心地で、山と高原を有する。寒暖の差が大きく、米や野菜など農作物の生産に適しており、キノコの栽培も盛ん。昔話の語り部を呼んでお話を開催するなど、伝統文化行事も多く行われている。
●人口…5,358人/世帯数…1,777世帯(2009年6月現在)
●交通…上越自動車道・豊田飯山ICを降り、国道117号から約20分。東京駅から長野新幹線長野駅でJR飯山線に乗り換え、最寄りの飯山駅で下車。約3時間

「交流居住」施策の概要

定住施策に力を入れており、標高約600mの高台にある約120㎡の『木島平村田舎暮らし体験住宅』を村で運営し、2年間の期限付き定住を促進。入居条件は村への住民登録・地域住民とのコミュニケーションをとることなどで、使用料として月額3万円を納付すれば、村の生活ができる仕組みとなっている。村内の情報を伝える交流サイト『い～なか交流館』では木島平村出身で、『まんが日本昔話』の語り部としておなじみの常田富士男さんが村をPRするコンテンツなどを配信。村への来訪へつなげるPR活動なども行っている。

<http://www.kijimadaira-fan.jp/>

目的別滞在タイプ

[ほぼ定住型] *どっぷり、田舎暮らし

木島平村田舎暮らし体験住宅

村が空き家を買上げ、リフォーム後に「体験住宅」として整備。標高約600mの高台にある木造の平屋で納屋も付いている。周囲は山と畑と田んぼに囲まれた、いわゆる「田舎暮らし」を満喫できる場所で、2年間の期限付き定住が可能。村への住民登

録、地域住民とのコミュニケーションをとることなどが入居条件。現在は1軒のみの提供だが、今後需要に応えるために、村内の空き家を体験住宅として位置づけていく予定。田舎ならではの広く開放的な間取りの家が多いのも特徴。





12

「結」の心を受け継ぐ、伝統の村 岐阜県白川村

ぎふけん・しらかわむら

1995年に、ユネスコ世界遺産に登録された合掌集落のある白川村。角度の急な茅葺屋根の形が、合掌したときの手の形に似ていることから名づけられたこの屋根は、日本有数の豪雪地帯でもある白川村の、積雪時の荷重を支えている。約200人が準備の日を合わせて2日間て屋根の葺き替えを行う「結」は、支え合って暮らす村人の関係性を象徴した労力交換制度で、現在でも人々が共生する精神を表している。また、日本で

最も古い地質時代・白亜紀の地層が出現しているところであるため、白川郷を包むようにそびえる霊峰白山や山麓の森の鬱蒼たるブナの森には、太古からの大自然が受け継がれている。まさに、ここは自然と人の営みの記憶に満ち溢れた場所だ。
2005年から『トヨタ白川郷自然学校』の料理長として居住している田中理永さんは、「私はずっとアウトドアが趣味だったけれど、ここへ来てさらに自然とふれ

あうことが好きになりました。今は、休日になるたびに山登りや散歩をして過ごしています」と話す。もちろん、環境は生き物たちにとっても聖地である。ツキノワグマやウサギ、キツネ、タヌキなどの動物たちのほか、溪流に生きる川魚たちも数多く生息している。白川村は、太古から続く自然と人々の営みの記憶をそのまま受け継いできた。田中さんと同じ職場で働く古川久実さんも、そんな自然ガイドや森林整備、ツキノワグ

「交流居住」施策の概要

白川村では、かねてよりさまざまな都市部との交流施策を展開。移住や交流居住に関する施策として、荻町伝建地区定住促進団地の分譲のほか、新規就農者技術習得施設、または村営住宅への入居などを進めている。また、観光協会主催のグリーンツーリズム『白川郷まるごと体験宿』を展開するほか、NPOや企業と連携してエコツアー体験などもサポートしている。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] 〆ちよこつと、田舎暮らし

トヨタ白川郷自然学校

白川郷と霊峰白山の麓をフィールドとし、環境教育の研究に裏打ちされたプログラムのもと、さまざまなエコツアーが体験できる宿泊施設。施設では、自然や文化の持つメッセージを人の言葉にして解りやすく伝える

「インタープリター」が案内してくれる。地域・NPO・企業が三位一体となって地球環境を取り巻く課題に地道に取り組む、珍しい組織形態のNPO法人『白川郷自然共生フォーラム』が運営している。



[往來型] 〆行ったり来たり、田舎暮らし

白川郷まるごと体験宿

白川郷の大自然や文化、そして伝統に触れながら1泊2日を過ごす交流居住体験プログラムの田植えや稲刈りなどの農業体験のほか、魚釣りや林道ネイチャ

ーウォーキング、郷土料理体験など、年に12回以上の体験プログラムを実施し、グリーンツーリズムに取り組んでいる。



マの調査の職業に憧れて居住してきたひとり。また、「おじいさんやおばあさんが歳をとっても楽しそうに生活している姿を見て、自分もそんな人生を歩みたいとも願うようになった」という。そして、実際に住んでみて驚いたことは、村の人々が伝統文化の継承に懸命なこと。「いろいろな行事に参加させてもらっていますが、みなさんお祭りにすごく力を入れています。伝統文化に対してしっかり向き合っ

ているのも白川村の大きな魅力のひとつです。村の人々を見ていると、私たち人間が自然と一体の営みをしていることに気づかされます」
私たちは、生きているのではなく、生かされている。白川村での暮らしは、自然や文化、地域の人々との支え合いの中に「自分」が存在していることを思い出させてくれる。ここには、今でも「結」の心がしっかりと受け継がれている。

data
岐阜県北西部に位置し、急峻な山々に囲まれた農山村。山ひだが険しい地域で、その急斜面地の間を縫うように庄川が流れ、その流域に集落が形成されている。日本有数の豪雪地帯でもあり、積雪に対応した茅葺民家の合掌造りの家々が並ぶ集落は、『白川郷合掌集落』としてユネスコ世界遺産に登録されていて、年間180万人以上の観光客を魅了している。
●人口…1,838人/世帯数…573世帯(2008年4月1日現在)
●交通…JR名古屋駅より岐阜バスに乗り換えて約3時間。車の場合、東海北陸自動車道・白川郷ICより約5分



13

清流を生む山々と戯れる

三重県大台町

みえけん・おおだいちょう

三重県大台町の2009年度のイベントカレンダーは、70を超えるプログラムでびっしりと埋まっている。小学生から参加できる『大杉谷峡谷船上新緑ツアー』や健脚を自負する人だけが参加できる標高1,396mを登る『池小屋山登山』、大台町の特産品が集まる『森の特産市』など、その種類は多岐にのぼる。これらは、すべて大台町役場が窓口となっているイベントで、これに民間団体がやっているプログラムを合わせると

優に100を超える。

「イベントの多くは旧宮川村の頃から続いているもので、現在はそれに付加していけばいい状態のためバリエーションを保つことができます。それにイベントという一過性の印象がありますが、一度のイベントが次に訪れるきっかけになっていて、リピーターが多いこともプログラムを増やしている要素になっています」

多すぎてどれから話せばいいのかわからないといった様子で、プ

ログラムの説明をしてくれたのは、企画課の中森文子さん。彼女は、2006年の合併で大台町になる前の宮川村の出身。そこを流れる三重県内最長河川の宮川は、国土交通省の一級河川水質調査で1991年から2007年の間に6度にわたって全国一位と認定され、日本屈指の清流で知られている。役場が窓口となって行うイベントの場所は、その宮川と周囲を囲む美しい山々が軸となっている。町の面積は362.94km²と三重県内で最大。そ

「交流居住」施策の概要

まちづくりの基本姿勢を「自然と人々が幸せに暮らすまち」と位置づける大台町は、その豊かな自然を利用した交流プログラムが多数揃っている。大台町観光協会が主催するイベントのほか、宿泊施設を兼ねる『奥伊勢フォレストピア』、NPO法人『大杉谷自然学校』などが主催する自然環境を活かしたプログラムが多数あり、それ自体が交流居住の場となっている。滞在を希望する人には、地域のナビゲーターを紹介している。

目的別滞在タイプ

[研修・田舎支援型] 田舎で学んでお手伝い

特定非営利活動法人 大杉谷自然学校

大杉谷地域の豊かな自然資源を保護活用し、多数の体験型の環境教育を提供しているのが、NPO法人『大杉谷自然学校』である。2001年に開校して以来、

子供を対象としたキャンプ、川や山での遊び方、動植物観察を行い、現在では大人向けの登山やトレッキングなど幅広いプログラムが展開されている。



の90%以上を山林が占めており、その一部には『吉野熊野国立公園』、『奥伊勢宮川峡県立自然公園』が含まれる。伊勢神宮からも車で約40分と近く、熊野古道伊勢路も有する大台町は、「八百万の神」を実感できる格好の土地だといえる。

「特に人気があるのは『清流チュービング』。綺麗な宮川上流を下りながら、溪流のスリルと新緑の山を堪能できます。子供たちはもちろん、大人も楽しめるのですぐ

に募集はいっぱいです」

大台町で交流居住をするうえでの個人的な調査は、あまり必要ないかもしれない。選びきれないほどの多様なイベントが、その一旦を担ってくれるからだ。さらに、それがすでに「楽しい交流居住」となっている。町を知るうえで大切なことのすべては、大台町がメニューとして用意してくれている。気構えず、まず楽しむことから入る交流居住のかたちが大台町には備わっている。

data

三重県中南部に位置し、清流日本一に選ばれている宮川の源流域から中流域に沿って東西に細長く広がっている。比較的温暖な南海型気候区分に属し、平均気温は15℃(過去5年間平均)。お茶、シイタケ、フキノトウなどの栽培が有名。
●人口…10,727人/世帯…4,225世帯(2009年5月末現在)
●交通…紀勢自動車道大宮大台ICから約5分。名古屋駅からはJR関西線、大阪方面からは近鉄松阪駅でJR紀勢本線に乗り換えてJR三瀬谷駅へ約50分



14

自然と人の想いを巡らせる「環の郷」

滋賀県高島市

しがけん・たかしまし

古 来より京都、奈良の都と北陸を結ぶ交通の要として栄えてきた高島市。中でも、比叡・比良山麓を湖畔に沿って走る西近江路、塩漬けされた鯖を運ぶ街道であったことから鯖街道と呼ばれる若狭街道、京都方面への湖上交通、これらの拠点港町や宿場町として栄えてきた。陸、海、空の各交通網へのアクセスが充実しているため、近畿や中京、北陸3圏の結節点となり、都市圏の利便さから日本海の恵みまでもが手に届

く場所。2009年、大阪府から移住した平井さん夫婦は、その距離を活かして、しばらくの間、行ったり来たりを繰り返しながら、田舎暮らしを体感していったという。「初めて畑をいじったとき、何かパツと開ける感じがするほど楽しかったです。一日中土をいじっているとすごく疲れるんだけど、なぜか心地よい。それからは、週末になれば高島と大阪を行ったり来たり。コンビニの袋にタオルだけ入れて、すぐにでかけるスタイル

でした」と語る夫の崇さんに、妻の真季さんも大きくなづく。「大阪の生活は忙しくて、暮らし、というものをしていませんでした。だけど、今は、暗くなったら家に帰るし、お腹がすいたらしっかりご飯を食べる。高島へ来て、ようやく本当の意味で暮らし、はじめました」また、高島市の約7割の面積を占める森林は、豊富な水を生み出す。「中央分水嶺」と呼ばれる、太平洋側と日本海側の水系を分け

る境界があるため、この地域の豊かな水源となり、山や森に蓄えられた水は、川や地下水となって下野へ広がる里地へ、そして琵琶湖まで流れ出る環境を作り出している。その結果、豊かな自然環境や水という地域資源を循環させ、共有しながら生活を営む「環の郷」という独自の地域社会観を築いてきた。それが、高島市に「お互いさまとおかげさま、の精神を根付かせたという。「お互いさまは、相手への思いやり。おかげさまは、

相手への感謝の気持ち。相手のためにしたことが、いつか自分に返ってくるのであれば、都市と田舎の関係でも同じことが言えます。相手の立場を理解して、互いを認め合い、ようやく良い交流居住ができるのだと思います」と政策調整課・青谷守さんは話す。古来より、多くの人々が行き交う町だからこそ生まれた、相手への「お互いさまとおかげさま。高島市には、これからの暮らし、のヒントが秘められている。

data
滋賀県北西部に位置し、東部は琵琶湖、南西部は比良山地を境に大津市と京都府に、北西部は福井県に隣接している。気候は、日本海側に近いことから冬季の寒さは厳しく、積雪量の多い日本海側気候。また、「弁当忘れても傘忘れるな」という言葉があるほど秋は雨が多く、「高島時雨」と呼ばれている。
●人口…53,950人/世帯数…17,032世帯(2005年10月1日)
●交通…JR京都駅より約47分、大阪駅より1時間15分。車の場合、名神高速道路・京東ICより約50分

「交流居住」施策の概要

若者定住促進に向けた施策の展開や定住環境の整備を重点的に進めていくため、2008年6月に『若者定住促進条例』を制定。住宅確保の支援や就労および起業の支援、子育て環境の向上、お試し居住のようなサービス展開の応援など、市をあげて4つの柱の交流居住の施策に取り組んでいる。

目的別滞在タイプ

[研修・田舎支援型] 田舎で学んでお手伝い

畑の棚田オーナー制度

狭く急峻な斜面に張り付くような土地での農作業により、耕作できる面積が年々減少する中、農地の荒廃を防ぐ手段として取り組まれた事業。棚田の田んぼ100㎡を年間3万円支払うことでオーナーになることができ

る。田植えと稲刈りを体験する「おまかせコース」、それに施肥や草刈りを加えた「こだわりコース」、そしてオーナーと地主が直接連絡を取り合って作業内容などを決める「超こだわりコース」などがある。



[短期滞在型] ちょこっと、田舎暮らし

たかしま生きもの田んぼ米

『たかしま有機農法研究会』が生産するお米の名称。田んぼに生息する生きもの調査を消費者と一緒にしたり、会員同士でほ場を回り、生育状況の観察や意見交換をする育成観察会など

を、年に何度も開催している。田んぼに暮らすさまざまな生きものたちの暮らしや環境に配慮しながら、消費者にも、生きものにも農家にも安心なお米づくりに取り組んでいる。





15

吉野熊野の圧倒的な自然の中で

奈良県下北山村

ならけん・しもきたやまむら

奈良県下北山村は、四方を山に囲まれ、特に西部は釈迦ヶ岳をはじめとする大峯山系が南北に連なっている。その尾根筋には、2004年に世界遺産登録された『紀伊山地の霊場と参詣道』を構成するひとつ『大峯奥駈道』がある。熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）へと通じる熊野参詣道のなかでも最も厳しい修験ルートとされ、現在、ここを踏破する者は限られている。それを示すかのように、下北山の

山々は夕方から朝にかけては濃霧に覆われ、熊野川をはじめとする溪流と合わせて望む景色は、`荘厳、の一言。村の半分は『吉野熊野国立公園』だけあって、「軽く森林浴」というよりは、心身を清める奥深さを宿している。一方で村の中心は、温泉やスポーツなど村を訪れる人が楽しめるスポットや施設が整っている。池原ダムは、ブラックバスフィッシングの聖地とされ、日本だけでなく海外からもフィッシングファ

ンが訪れるほど。「バス釣りマスターを自称する人で池原を知らない人がいたら、それはモグリです」と笑う藤原秀揮さんは、下北山村に来て10年。池原ダムの畔でボートのレンタルやフィッシングのサポート全般を行う『スポーツ・ワールド』の経営をしている。「ボートを浮かべて作業をしていると、一日に何度かまったく人工的な音がしない瞬間があるんです。自然が発する音だけの世界に包ま

「交流居住」施策の概要

生活拠点を都市部にもちながら、公的や民間の宿泊施設を利用し、田舎の生活体験や自然とのふれあいを通して、都市部では味わえない体験を得られる。また、空き家と空き地の情報を随時発信しており、往來型、定住型の交流居住を希望する人の窓口を下北山村役場が担い、当事者を紹介するなどしている。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] `ちよこつと、田舎暮らし

下北山スポーツ公園

全国的に有名な池原ダムでのバスフィッシングや溪流釣り、また熊野古道の山歩き、各種スポーツを満喫するための拠点として活用できる多目的施設。1980年より池原ダム堰堤下に約19ha

の広大な廃川敷を整備し、現在では、宿泊施設、温泉施設などが完備された総合的なスポーツ公園として交流居住者と村民とのコミュニケーション・ポイントにもなっている。



[ほぼ定住型] `どっぷり、田舎暮らし

株式会社 下北山情報ネットサービス

下北山村が岐阜県大垣市のIT企業、サイエンスネットと協働で設立したIT関連会社『株式会社下北山情報ネットサービス』。村のインターネットは光通信が整備されており、今後、空き家、空き地情報のデータベ

ース化など様々な情報発信に向けての準備を進めている。ウェブデザイナーやシステムプログラマーの社員募集も行っており、本格的に田舎居住を検討する人の受け皿となっている。



れる幸福は、10年経った今でも飽きることはありません」以前は横須賀の海上自衛隊に所属し、長い場合は1年のうち9ヶ月以上も海上で過ごした経験をもつ藤原さんは、水上のエキスパート。ほとんどが村以外からのお客さんに、言葉ではなく体験を通して下北山村の魅力を伝えている。広大な多目的施設『下北山スポーツ公園』。そのひとつである『きなり館』で働く朝倉文代さんは、京都市立芸術大学を卒業後、しば

らくして創作活動に専念できる下北山村へ移住した。「母がここで『なら国際音楽アカデミー』を手がけていて、毎年のことだったから家を建てたんです。音楽祭のための合宿所兼、私のアトリエになっています」近年は陶芸教室を開いて、村の人たちと作品を作っている。「いざ陶芸品が下北山の名産に加われば」と嬉しそうに語る朝倉さんの表情からは、この村で暮らしていくことへの期待感で溢れている。

data
奈良県の東南端に位置し、西境には世界遺産に指定された大峯山脈の山々が連なる。気候は表日本型の特色を示し、夏季は東風、冬季は北西の季節風が吹く。積雪量は極めて少ないが、2,500~4,500ミリもの降雨量が、荘厳な山と村に潤いを与えている。
●人口…1,221人/世帯…646世帯(2009年5月1日現在)
●交通…三重県熊野市の国道42号線より309号線に入り、車で約30分



16

海と里の四季を堪能する

和歌山県すさみ町

わかやまけん・すさみちょう

『紀伊ジョウロウホトトギス』という紀伊、熊野地方の崖壁に自生しているユリ科の山野草がある。これはホトトギス類の中でもひととき優雅な花をつけるが、成長過程が特徴的で春は日差しを必要とするものの、夏は日陰でないと枯れてしまうナイーブな植物。すさみ町はダムがない自然のままの川が流れており、その複雑に蛇行した流れと山の樹々の関係によって自生可能な環境が保たれてきた。しかし、近年

は乱獲により絶滅危惧種に指定されている。その『紀伊ジョウロウホトトギス』の栽培に成功した桜井明さんは、毎年花をつける秋になると、家の一画を利用して時期限定のカフェを開いている。レコード店を営んでいた名古屋から移住して9年。敷地内の畑に育つ作物をシカや猿から守るための対策を楽しそうに話す桜井さんは、とても52歳まで都市に住んでいたとは思えない。「畑の雑草を全部取り除い

た後の爽快感がたまらない」と笑顔で話す桜井さんの隣でうなづく飯野浩さんは、ご近所に住む東京出身の移住者仲間。大学で農学を専攻して就職したが、30代前半に田舎暮らしをはじめ、35歳で家族とともにすさみ町へやってきた。「いろいろな田舎を見ましたが、ここがほかと違うのは、完全に山の中なのに、少し開けた感じがあるところ。しかも、たった30分で海に出られる。釣りが好きな僕としては川も海もあって、塩害の

心配のない山に住めるというのがいいですね」飯野さんは釣り好きも手伝って、すさみ町商工会が窓口となって進める『海と里の大学』で通年授業のインストラクターを務めている。移住者の飯野さんはもちろんのこと、海にも面しているすさみ町で暮らす人々にとって釣りは生業や趣味を超えた地域文化。町のあちこちに海と山のインストラクター級、の人がいる。『海と里の大学』は、その恵まれた人材と環境を活

かしたプロジェクト。2008年からはじまり、ルアーフィッシング、カジキ釣り、スルメイカ漁、さらにはダイビングまで学ぶことができ、修士講座参加者には卒業証書が授与される。町主導のプロジェクトだけでなく、移住者が町の長所を見つけてカフェを開いたり、住民が専門知識を活かして授業を開設したりと、交流の機会が点在するすさみ町。町に来る人のためだけでなく、町に暮らす人が楽しめる場がある。

data
紀伊半島の南西部に位置し、紀伊山地を背に、白浜町、古座川町、串本町と隣接し、太平洋に面している。東西19.25km、南北15.5km、面積は174.71km²で町土の約93%は、林野で占められている。気候は温暖多雨。イノブタやケンケンカツオが有名。
●人口…1,124人/世帯数…622世帯(2009年5月1日現在)
●交通…南紀白浜空港から車で約45分。大阪方面からは、吹田I.CからみなべI.Cまで高速道路で約133km、約2時間。みなべI.Cから国道42号を南下し約45km、約1時間10分

「交流居住」施策の概要

主に『海と里の大学』を通して、釣り、漁業、農業、トレッキングなどに関する町の名人が、参加者のインストラクターとなって授業を展開。すべての授業を「食育」に落とし込むことで、地域住民との交流や、文化継承の場として活用。移住者がインストラクターとなる授業もあり、移住希望者が参考意見を聞けるようになっている。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] ちょこっと、田舎暮らし

海と里の大学

2008年からスタートし、漁業や農業など多数の授業を提供している。地域特有の人材に注目し、そのリーダーのもとでの交流事業を通じて、田舎暮らしを体験できる。また、自分で獲った魚や山菜を自分で料理すると

いう体験から、毎日の食生活が人々の知恵、活動に支えられていることや、多彩な食文化を理解するなど、すさみ町ならではの「食育」を学ぶことができる。
<http://www.umisato.com/>





17

三者連帯のまちづくりをめざして 鳥取県倉吉市

とっとりけん・くらよし

市内中心部から近くに望む打吹山は『森林浴の森100選』『サクラの名所100選』にも選ばれた、原生林を残す豊かな自然あふれる山。その山からなだらかに広がる平野、鳥取県の中ほどに位置する倉吉市は、文化の香りが感じられる人口5万人ほどの町だ。倉吉駅から車で10分ほど走ると見える白壁土蔵群は、1700年代から残る家々が国重要伝統的建造物群保存地区として選ばれた、旧商家の建物や蔵が建ち並ぶ地域。ま

た、旧国鉄倉吉線が廃線になった後も、残ったレールに沿ってのトレッキングが人気で、多くの観光客が訪れている。「何とか若者が定住して町が少しでも活性化してくれたら」と話すのは総合政策室の木藤隆親さん。自身もIターン者である木藤さんは、「倉吉の良いところは、日常の生活が、当たり前暮らしやすく送れるところ。ちょっと車や汽車に乗れば、大きな繁華街が米子や鳥取にあるし、生活物資は市内

で十分。新鮮な食材も不自由なく手に入る場所です」と話す。ただ、難点は「就職先が少ないところ」にある。そこで、若者の声を拾おうと2007年から成人式の会場で、倉吉市についての意見を聞こうとアンケートをとり始めた。就職する若者のほとんどが周辺の市や関西圏へ出てしまう現状を何とかしようという思いと、若者の「地元企業を知らない」という本音がきっかけとなり、地域SNS『住まいな倉吉』を開設。産業部 商工

「交流居住」施策の概要

若者の定住化を促進することを目的とし、地域SNS『住まいな倉吉』を開設し、地域ならではの情報発信を行うコミュニケーションの場を提供している。定住を確かなものにする就職口の紹介など、市内・近郊の企業を積極的にSNSへ誘致し、募集要項や企業の現状など、積極的な情報公開の場として活用している。また、2009年夏より『くらよし空き家バンク』制度を設け、主な人口減少地域である中山間地の空き家を「宅建協会中部支部」と連携して調査・登録を実施中。

目的別滞在タイプ

【ほぼ定住型】`どっぷり、田舎暮らし

くらよし空き家バンク

倉吉市に定住を希望する人に、『くらよし空き家バンク』に登録された空き家を紹介するサービス。2009年夏以降に受け入れを開始した。県内外からも来てもらおうと、空き家を探す際にはゆっくり倉吉の町を楽しん

でもらえるように、天然温泉つきの自炊設備完備の素泊まり施設などを紹介している。近くの直売所では旬な地元の食材を購入でき、`ちょこっと、田舎暮らしも同時に体験できる。



【短期滞在型】`ちょこっと、田舎暮らし

地域 SNS『住まいな倉吉』

市内企業と倉吉への転職を希望する人との間で直接的にコミュニケーションを図ることが出来る場として、行政側が地域版のSNS（ソーシャルネットワークサービス）を開設。「行政から

のお知らせのほかに「地域の情報」などのカテゴリがあり、ユーザーが就職情報などのコミュニティを立ち上げ、情報交換などを行っている。
<http://sns.city.kurayoshi.lg.jp/>



観光課の浅井清伸さんは「ネットでのコミュニケーションは若者にとって生活の一部。このシステムを使って、若者が市内や近郊の企業へコミュニケーションを図る窓口をつくりたいと思いました」と話す。現在、地元暮らしに暮らす96名が参加するこのコミュニティはまだはじまったばかりだが、今後は若者の参加増加は勿論のこと、企業側の門戸開放も期待している。また、若者を問わず定住に向け

た施策として、『くらよし空き家バンク』を2009年夏に開設。空き家の購入に必要な経費として上限15万円を交付するなど、好条件での誘致も検討中だ。ゆっくりと、しかし着実な行政側の取り組みはまだはじまったばかり。行政・企業・市民の連携が発展課題のこの地域に、若者の活気が戻る日も、そう遠くはない。

data
鳥取県の中央部に位置し、南北朝時代には城下町として発展した。江戸、明治時代の面影は白壁土蔵群や商家の町並みに残っており、観光客が後を絶たない。甘味の強い極上品のスイカやメロン、梨などの産地としても有名で、大山のふもとに広がる大自然を有する。
●人口…51,419人/世帯数…20,565世帯（2009年6月現在）
●交通…鳥取空港から連絡バスで約45分。米子空港から車で約1時間30分。また、大阪からは中国自動車道庄院ICで下車し、約3時間。鉄道『スーパーはくと』で約3時間



18

現代の神話をつくる町 島根県雲南市

しまねけん・うなんし

ヤマタノオロチに大酒を飲ませ、イナタヒメを守ったサノオノミコトが宮を建てた地、という神話が残る現雲南市・大東町須賀。建立の時、雲が立ちのぼったといういわれがあるだけに、この辺り一帯の山々や盆地には、神秘的な空気を感じる人も多いという。
「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を目指す雲南市は、それぞれに特色を持つ6町村が合併して誕生した市だ。その

中でも、日本の鉄生産の主であった『たたら製鉄』の本拠地、吉田町は「鉄の歴史村」を宣言し、歴史的価値の向上や、それをきっかけとした交流につとめている。
この村の旅館『若槻屋』でまちづくり活動を支援する高木朋美さんは、「合併し大きな市になると聞いたとき、この村（旧吉田村）の名前がなくなって、何が残るのだろうとみんなで話し合いました」と話す。そして村への想いから、20年前から吉田村が取り組ん

できた「鉄」の歴史的資産を中心に、「交流」を加えたまちづくりを行おうと、取り組みがはじまった。
こうした流れにのせて、『若槻屋』でも田舎体験などのツーリズムメニューを用意し、町をより楽しんでもらえるようなプログラム作りを行っている。また、「今朝採れた野菜なども売っているのだから、地元の方が買ってよく声もかけてくれますよ」と話すのは、この町の特産品やお土産の販売所に勤め

る青木剛さん。大阪から就職した若者のうちのひとりで、車で移動すれば必要なものは何でも手に入るこの地域は、暮らしやすいという。同じように、雲南市に移住を決めた斎藤順さんは、陶芸の制作を心ゆくまで行いたいという理由で、アトリエつき住居を山あいにも構えた。「夜は静かすぎて眠れないほど」らしいが、空気もよく、落ち着いて作品を作れる環境は何ものにも代え難い。
また、雲南市は行政だけでなく

受け入れ側の住民に積極性もある地域だ。例えば、15歳以上の地元住民に「この地域をよくするための今後の取り組みについて」などのアンケートをとり、アイデアを出し合った結果にできた『田舎料理レストラン かやぶきの館』。古民家を少しだけ改装した座敷で、地元の主婦たちが旬の得意料理を出し、連日賑わっている。
住民が主役となり、新しい文化を築いていく町。雲南市民の行動力に、地域の未来は明るい。

data
2004年に大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村（現・吉田町）、掛合町の6町村が合併して誕生した。市内には出雲の歴史が見える遺跡や、「妻伊川堤防の桜並木」など、数多くの名所が見られ、観光客も多く訪れる。08年制作の雲南市を舞台にした映画『うん、何?』は市民も巻き込み、市の人と町の魅力を十分に汲み取った映画として好評を博した。
●人口…43,929人/世帯数…13,655世帯（2009年5月末現在）
●交通…出雲空港より車で約45分。JR山陰本線・宍道駅より木次線にて木次駅下車

「交流居住」施策の概要

主に定住を促進するための取り組みに力を注いでいる。定住推進員（嘱託職員）を配置し、定住相談のワンストップ窓口として、移住希望者へ住居情報（空き家など）の提供や就業支援、移住後の生活支援などを行っている。2005年から現在までは市外から約60世帯、144人の移住が実施された。また、田舎ツーリズムとしては、地区振興会やツーリズムの拠点となる宿など、市民が主体となって行う活動を行政が積極的に市内外にアピールし、支援している。

目的別滞在タイプ

【ほぼ定住型】^〆どっぷり、田舎暮らし

空き家登録制度

市内の空き家を定住推進員（嘱託職員）が調査、登録し、移住希望者へ情報を提供している。賃貸及び売買契約は、希望者と所有者が直接行う。定住推進員に都会からUターンしてきた

者を含めて配置するなど、町を知り尽くし相談ができる、心強いスタッフも魅力。空き家のほかに公営住宅、民間の賃貸住宅もある。



【短期滞在型】^〆ちょこっと、田舎暮らし

ツーリズムの宿『若槻屋』

吉田町の中で、昔は庄屋屋敷であった古民家をリノベーションし、カフェを併設した宿として開業。広い座敷や土地柄を活かしての「昔のおやつをつくろう」「山のウォーキング」「農業体験」など、ツーリズムのメニューを

構成し、年間1万3000人ものツーリズム体験者や観光客が訪れる。地元の新鮮な食材を取り入れたメニューも人気。この宿を通して吉田町に職業を作りたいという目標も掲げている。





19

ハーブ香る山間の里でおもてなし 島根県邑南町

しまねけん・おおなんちょう

日本海の港町、江津発の電車に乗り、単線・JR三江線に乗り換え、バスに乗って約1時間半。スキー場や温泉、天然記念物など豊かな自然が残る邑南町は、2004年に羽須美村、瑞穂町、石見町が合併してできた広島県境の町だ。高台から町を見渡すと、島根県産の特徴的な赤瓦の屋根が盆地いっばいに広がり、「鉄穴流し」という方法で砂鉄を採取する際にできたといわれる小さな丘がところどころに広がっている。

ハーブの研修施設でもある『香木の森公園』を見下ろしながら、「ハーブがまだ珍しかった頃から、この町では、ハーブをまちおこしのひとつにしよう、という町民の動きがありました」と定住企画課・大屋典香さんは話してくれた。240種以上のハーブを植えている『香木の森公園』では、毎年、ハーブに関することがらを中心に1年間の期限付きで学び、この町で生活する研修生を募集している。「植物関係の仕事をしたい」「自分

探しをしたい」という女性など、様々な目的を持つ人が研修プログラムに申し込んでいる。2009年の4月よりこの研修施設で働きながら学ぶ下原良子さんは、広島での幼稚園教諭の仕事を辞め、移り住んできた。「アロマを楽しむだけでなく、自分で育てたいと思ったし、食育の分野にも有効だと思って」と話す。「この魅力はごはんも美味しいこと！」と生き生きと話す彼女は、この町で「手に職、をつけようとしている。

気取らず、飾らないもてなしで町外からの交流者を受け入れる邑南町。自宅である農家を民泊施設として提供する『土居ランド』の土居静子さんは「最初はどんな人が来るか少し不安だったけど、ここに泊まりに来た子供にも同じように、『どんなおばあちゃんか不安だったけれどいい人で良かった』って言われたんですよ」と当時は振り返って嬉しそうに話す。季節に応じて筍掘りや鮎の炭焼きなど、普通の田舎、の生活と農

作業を体験してもらおうと、特に子供たちはどれも珍しくてテレビもつけずに夢中になるという。「とにかく元気でこの仕事を続けた」という静子さんのような受け入れ実践者は、現在約100名の登録がある。こうして町民自らが行動を起こし、行政が器を整えながら、人の魅力、を感じさせる交流体験は、これからも町外の人をたくさん巻き込んで行かろう。

data
島根県のほぼ中央、中国山地の標高600～800mの山々に囲まれた盆地と高原地帯に集落や農地が広がる地域。高齢者や障がい者にやさしい町として福祉政策に力を入れているほか、自然の魅力を活かして米や高品質な野菜作りの取り組み、研修制度などに力を入れている。
●人口…12,409人/世帯数…5,096世帯(2009年4月現在)
●交通…広島より中国自動車道から浜田自動車道に入り瑞穂ICまで約50分。ICより町内中心部まで約10分

「交流居住」施策の概要

『邑南町ワーク&スタディプラン』などの研修メニューや『邑南町田舎ツーリズム』の中での『農家民泊・民宿』などの短期滞在メニューを柱とし、町のことを理解してもらった上で定住に結びつける施策がメイン。ツーリズムの一環としては種類豊富な「スポーツ体験」「生活文化体験」、近くの石見銀山などを利用した「歴史伝統体験」などのメニューを開発。近年は隣接する美郷町、川本町の3つの町と協働で、子供たちを対象にしたプログラムに力を入れ、近県からの子供会や学校などの交流居住を促進している。

目的別滞在タイプ

【短期滞在型】^〴ちよこつと、田舎暮らし

邑南町田舎ツーリズム推進研究会

2006年に町の田舎の良さを全国に発信したいという仲間が立ち上げた有志団体。農家民泊や農家民宿を中心に滞在型の交流事業をすすめており、現在年間1000名近くの都市住民が参加している。都市部の子供たちや

大学生を受け入れる教育ツーリズムの受け入れ地域としても展開を図っており、2009年には『子ども農山漁村交流プロジェクト』のモデル地域にも選定されている。



【研修・田舎支援型】田舎で学んでお手伝い

邑南町ワーク&スタディプラン

邑南町に1年間滞在し、働きながらハーブや農作物の栽培などを学ぶ。ハーブに関しては『香木の森公園』で学ぶ『香木の森園芸福祉コース』と、農家で仕事をしながら栽培技術を学ぶ『農業コース』がある。いずれも

概ね22歳から35歳までが対象で、前者のコースは女性のみとなっている。滞在費として月額13万円が払われる。1993年から始まった制度で、うち22名は町内に定住するなど、地道な取り組みが成果を上げている。





20

日本海に沈む夕日を望む、家並み 山口県阿武町 やまぐちけん・あぶちよう

晴天の日には、空の青が映えた海、赤茶に輝く石州瓦の家々がより彩りを深める、阿武町。コバルトの海岸沿いを走るドライブウェイからは、日本海に雄大に沈む夕日を一望することができる。歩くと、キュッ、キュッと鳴く、全国でも希少な「鳴き砂」の愛称で名高い『清ヶ浜』は、地元住民が中心となり「鳴き砂復活隊」を結成。美しいふるさとを次代に引き継ごうと、定期的に清掃活動を行う。

「鳴き砂復活隊」の隊長であり、漁家民宿『浜の小屋』を営む茂刈達美さんは、「何もないようで何でもある。そんな阿武の海や山にふれてほしい」と、漁師でもある自らが獲ったアジやヒラメを豪快に食卓に並べ、訪れた人と食をともにする。また、国内屈指の「ジャズ・フェスティバル」を地元の実行委員長として2004年から開催。「豪華な顔ぶれが揃い、地元の人や移住者はもちろん、全国のジャズファンが親交を深めるきっ

かけとなった」と話す。西洋上絵付教室を営む『若草窯』の上沢敦子さんは、東京から移住して3年半。ご主人と2歳になる息子さんとの3人暮らしをする。「地震などの災害の不安が少ないところで、自分たちの食べ物くらいは作りたいと思ったので、気候が穏やかで野菜の育ちやすいところ、美味しい水が飲めるところという条件で絞りました。いくつかの候補地の中、対応が何よりも早くて親切だったのが阿武町でし

「交流居住」施策の概要

10年後の目標人口を5001人に定め、このうちの1000人は、各種交流事業などで阿武町を訪れ色々な形で町をサポートして下さる皆さんです。というスローガンのもと、町ぐるみで交流居住を実施。2006年から空き家バンク制度をはじめ、現在までに12世帯40人が阿武町に定住。団塊世代に限らず、若い世代の定住者の増加も目覚ましい。熟練した「定住アドバイザー」が、新生活に関する情報提供や相談、地域の紹介支援を行っている。

目的別滞在タイプ

【短期滞在型】^〆ちよこっと、田舎暮らし

やまぐちスローツーリズム

〆ABUの海を歩こう！をキャッチフレーズに、シーカヤックを通じて阿武町の四季折々の素晴らしさを満喫できる『ギ・パドラーズ』。初めての人でも手ぶらで気軽に西洋陶絵付け、ガラス絵付けの体験ができる『若

草窯』。地元のおばあちゃんの手作り弁当などをいただきながら、菊栽培名人によるフラワーアレンジメントの体験ができる『小菊の館』など、多数の体験メニューを用意。



【ほぼ定住型】^〆どっぷり、田舎暮らし

UJI 阿武空き家バンク

毎日更新を行うホームページ内で、UJIターン歓迎する空き家紹介を行う。豊富な写真とともに間取りや紹介されていて親切。また、海好きには、素朴な漁村風景が今も残る尾無漁港のそば

にある漁家民宿『浜の小屋』。山好きには、人里離れた一軒屋であり県内第一号の農家民宿『樵屋』など、気軽ながらも有意義な町暮らしを体験できる民宿もある。



た」と、移住の決め手について話す。現在、教室には、初心者向けコースもあり、農業体験以外でのIターンの経験談を聞きたいという移住希望者も訪れる。「今後は、絵付けをしながらゆっくりできるカフェが開けたら」と、自宅隣の築50年の小屋を改造予定だ。ご主人と保育園に通う2人の子供の家族4人で、横浜から隣町の萩へ移住して3年。「目前に海が広がる環境でシーカヤックをした

い」と、2010年の2月に阿武町への移住を決めた岩本寧子さんは、漁港の近くに家を決めた。すでにオフィスである『ギ・パドラーズ』は引っ越ししており、役場と連動したイベントなども開催。「カヤックを通じて阿武町の家を紹介するのはもちろん、雨の日には、名水が湧くところなど山里の良さも伝えたい」と話す。近頃では、こうした思い溢れる移住者同士の交流も増えているところがこの街の可能性だ。

data
海に面した奈古と宇田郷、山間にある福賀という3つの地区からなる。奈古と宇田郷は日本海に面し、気温も比較的温暖であり、福賀は山間に広がる盆地にあることから、冬季は積雪がある。全国で第1号の「道の駅」には深さ約1,000mまで掘削し、32℃の源泉を掘り当てた日本海温泉『テルメ阿胡』、温水プール、食堂、新鮮な魚介類、農産物、漬物、ウニなどの特産品直売所などがある。
●人口…3,977人/世帯数…1,605世帯(2009年5月現在)
●交通…羽田空港から萩・石見空港まで、飛行機で約1時間30分、萩・石見空港から阿武町までバスで約50分



21

自然の尊厳とともに 徳島県三好市 とくしまけん・みよしし

深い山々と清らかな水流。三好市に広がる風景には、人を惹き付ける力が備わっている。自然の尊厳が、主役の街なのだ。四国のほぼ中央に位置する三好市に到着すると、まるで鏡のように山の緑を反射させた美しい水面の歓迎を受ける。そこには、世界レベルの激流でラフティングやカヤックなどのアウトドアを楽しめる『小歩危』がある。その凛々しく貫流する吉野川の上流にあるのが、古くから渓谷美を臨む観光地

として名を馳せる『大歩危』だ。数10kmにわたり、V字型の深い渓谷が現れる。その姿は、人間の存在を小さく感じてしまうほどの威厳で満ちている。「ここは平野部にはない、山の美しさがあります」。まちづくり推進課の中村竜司さんはそう語る。山岳信仰の霊山として崇められてきた『剣山』（標高1,955m）などを有する三好市。その麓に抱かれた『祖谷』地区は、『日本三大秘境』のひとつでありながら、同時にそ

の中で人々は生活を営んできた。特に『東祖谷』は、戦いに破れた諸名家の流れを汲む武士たちが「隠れ里」として暮らしてきた歴史をもつ。三好市には、Iターン希望者だけでなく、海外からも移住したいという声が届く。それには、東洋文化研究家であり近年は京都の町家再生事業を手掛けるアレックス・カー氏の影響がある。全国を旅していた1973年、訪れた東祖谷の風景に魅せられ、茅葺き屋根

「交流居住」施策の概要

相談窓口として「移住交流支援センター」を設置。移住交流に関するポータルサイトを2010年3月に設置予定。空き家情報にも取り組んでいく予定で進められている。また、定住団地の整備や分譲地10区画を新規販売している。さらに、2008年度よりNPO法人『ふるさと力』がクラインガルテンを運営している。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] 〴〵こつと、田舎暮らし

農家民泊+体験メニュー

2005年より修学旅行生の農家民泊の受け入れを行っている。2009年には10校の受け入れ実績がある。農山村の暮らし体験ができる体験メニューは約60種。農林業体験、祖谷そば打ち

や地域の郷土料理であるバラ寿司づくりなどの味覚体験、剣山トレッキングやラフティングなどのアウトドア体験など。将来的には一般の受け入れも予定している。



[短期滞在型] 〴〵こつと、田舎暮らし

ふるさと体験 in とくしま

観光にプラスして、移住を考えている人へ向けた1泊2日の体験ツアーを企画している。農業体験や落合地区住民との交流、UIJターン体験者との懇談など。

3年目となる2009年は、8月下旬に三好市の山里に伝わる平家伝説にちなみ、『平家落人伝説をたどる旅』を計画。



の民家を購入。『籠庵』と名付けられた彼の〴〵城。は、現在でも世界中のバックパッカーや〴〵次世代が住みやすい村づくり、に共感する人々が立ち寄り、日本の伝統と田舎暮らしを体験できる交流の場となっている。「東祖谷には、山を切り開いて生活している風景が見られます」と中村さんが言う『落合集落』は、地区内の標高差が390mにも及び、江戸中期に建てられた屋敷が、周囲環境と人々と共存してきたとし

て、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された。「方言で、山の斜面に〴〵へばりつく、と言いますが、山の斜面に沿って家が建っている。夜は家の灯りが星みtainんです。〴〵民家ホテル、とも呼んでいます」。空へそびえる山々の峰、日本有数の大河——。その威厳ある自然と共存してきた人々はこれから、美しい景色に囲まれてホテルのように営みを続けていくのだろう。

data
2006年に4町2村が合併し三好市が誕生。古くから交通の要衝として発展してきた。『阿波踊り』や『祖谷平家まつり』、『源平雪合戦』などのイベントも豊富。ニュージーランド生まれのアトラクション・ゾープがあるスポーツ公園『イカワXパーク』も人気。また、渓谷や深山、湖の畔など温泉郷は多数。
●人口…32,310人/世帯数…13,784世帯（2009年5月末現在）
●交通…高松空港から約1時間、徳島空港・高知龍馬空港から各約1時間10分



22

山に囲まれた、桃源郷で

愛媛県久万高原町

えひめけん・くまこうげんちょう

『日本三大カルスト』のひとつである『四国カルスト』を有する久万高原町には、四国カルスト県立自然公園の南側に位置する『五段高原』や北側にある『大川嶺』など、多彩な高原がある。見渡す限り広がるのは緑の絨毯で、石灰岩の間でのんびりと大地を歩んでいく牛のいる景色は、まさに別天地。現実世界を忘れ、童話の主人公になってしまったかのような時間を約束してくれる。

「町の中心部は標高500m、カルス

トでは1,400m、石鎚山は1,982mもあります。それだけ標高差があると、同じ町内でも季節の花や新緑を1ヶ月以上楽しむことができるんですよ」と、企画観光課・高木勉さんは言う。季節の訪れをゆったりと堪能できる暮らしは、とても嬉しい。

過疎化は進んでいるが、久万高原町では40代前後の町民に活気がある。2009年4月、町内外をビジネスという形で結び元気な町を復活させようと、合同会社『久

万郷』がスタート。異業種の有志が集まり、異業種交流やイベントを頻繁に開催している。そのメンバーの奥様を中心に、地元の作物や手作り品を並べた「元気バザール」を開催したところ、1000人近くが立ち寄ったという。「町には良いものがある。でもそれを商売に繋げて活性化するには、まだまだ活かしきれていない部分もあります」。高木さんがそう謙遜する理由のひとつに、損得勘定をしない久万高原町の人々の性質があ

「交流居住」施策の概要

松山市から車で1時間という立地も手伝って、田舎暮らしを体験できるグリーンツーリズムが人気。時期限定の体験メニューもあるが、メニューの数は約50種にも及ぶ。高原野菜収穫体験や木工体験、郷土料理作りや農家民泊など種類は様々。多くは秋に開催している。また、林業に従事する『株式会社いぶき』の設立など、就業支援の場も整えられている。

目的別滞在タイプ

〔往來型〕〰️行ったり来たり、田舎暮らし

久万高原ラインガルテン

1999年にオープン。林業の町ならではのログハウス付き(宿泊不可)農園が2タイプ、畑地+日避けシェルターの計3タイプから農園を選べる。毎年4月からの原則1年契約だが、人気

が高く毎年すべて埋まっている。利用者は地元農家の営農指導が受けられる。また国民宿舎『古岩屋荘』の温泉入場料の割引券が特典に付く。利用料は、年間1~12万円。



〔研修・田舎支援型〕田舎で学んでお手伝い

久万農業公園アグリピア

就農希望者のための農業支援センター。野菜、花を主体とした施設園芸の研修のほか、農業簿記やパソコンなど、農業経営に必要な知識を学べる。月12万円ほどの研修補助金を受けるこ

とができ、研修期間は原則2年間。対象年齢は50歳以下。その後5年間は町内で就業することが条件。毎年、初夏から秋にかけて公募している。



る。しかしそれは、本来あるべき〰️人と人の関わり、が、今なお活き続けている証でもある。

人口1万人余りの久万高原町に、緑に守られるように悠然と佇む建物がある。それが、『町立久万美術館』。地元の木材を使った美術館で、木づくりの柔らかな空間に、大正・昭和初期の異色画家の作品を中心とした日本の近代洋画が展示されている。地元の林業家・故井部栄治氏のコレクションの寄贈を受けて、町が建設。小規

模な美術館だが、企画展など積極的な活動を展開しており、全国的な評価も高い。

〰️四国の軽井沢。と評される久万高原町。世界中で温暖化が危惧される中、この町では過去20年間の平均気温が、年度での差はあるものの高くはなっていない。寒暖の差があるため、旬の野菜がととも美味しい。自然が壊されることなく、山に囲まれた桃源郷のような町での暮らしが、ここでは営まれている。

data

4つの町村が合併し2004年久万高原町が誕生。一年を通して冷涼な気候であることから、夏は避暑地として、冬は2つのスキー場を中心にウィンタースポーツの拠点として人気がある。四国カルストをはじめ、自然を満喫できるスポットは多数。

●人口…10,553人/世帯数…5,042世帯(2009年5月末現在)

●交通…松山市から国道33号を経て車で約1時間、高知市から車で約2時間



23

清流に寄り添う日々を過ごす

高知県四万十町

こうちけん・しまんとちょう

四万十川を片手に車を走らせると、自然の懐の深さを感じる。川沿いに続く木々の道筋はのびのびとした緑の表情を見せているのに加え、ゆったりと流れる川は雲のない青空へ繋がっているのだからと思わせる程の大きな存在感がある。ここ四万十町が全国から客足の絶えない土地である理由は、この風景が教えてくれる。「どこか他の場所へ行ってこの町に戻ってくると、ここの木や山の

緑色が「本物の、の緑色だなんて実感するんですよ」。四万十町観光協会の秦泉寺智早さんは、自ら生まれ育った町を想いそう語る。自然の中で暮らす良さや面白さを知っている秦泉寺さんらは、四万十町での様々な体験や体験民宿の窓口を担っている。四万十町が誇る自然は、大きく分けて3つある。まずは、国指定天然記念物である『ひろはちしゃの木』など、文化財として保存されている巨樹や古木が多く残され

ている深い山々。そこには、『ヤイロチョウ』など絶滅危惧種とされる生物が飛来してくる。それは、ここの自然が本来の姿のまま残っている証拠だ。二つ目は、ウミガメも産卵に訪れるという、2006年度環境省により『快水浴場百選』に認定された『興津海水浴場』。遠浅で透明度の高い海は、ウミガメも認める水質を保ち続けている。そして、やはり四万十町の顔ともいえるのは『四万十川』。この町は、最後の清流と名高い四万十川の上

中流域にあたる。「四万十川は、地元の人の生活と密着しています。小さい頃から遊びは川遊びだったし、川魚も美味しい。眺めが良いだけでなく、生活と繋がっているんですよ」秦泉寺さんがそう言うように、天然うなぎや天然鮎などの新鮮な川魚、清流がもたらす清い水と土により育まれる米や酒など、作物の恩恵を受けてきた。海・山・川を有しいわば「日本の縮図」である四万十町では、豊富な町の資源

を活かした田舎体験を実施。農家民宿を体験した後、移住してきたご家族も数組いるという。「温泉郷の近くへのIターン者も多くいらっしゃいますし、リピーターの方は多いです。ここでのゆったりした生活、その季節ごと、その日ごとの生活が良いのかもしれないですね」。自然と密な、丁寧な暮らし。自然に生かされている、人間の本来の生活がある。

data
2006年、窪川町・大正町・十和村の3町村が合併。国道56・381・439号が走る交通の要所であり、現在高知自動車道の延伸整備が進んでいる。「四万十ヒノキ」「仁井田米」「四万十ポーク」「天然うなぎ」など、地域の資源を活かした作物が豊富。
●人口…20,075人/世帯数…8,810世帯(2009年6月1日現在)
●交通…高知龍馬空港から車で約1時間30分

「交流居住」施策の概要

四万十川全長の約4割が流れる四万十町は、訪れる約84%の人が県外からという統計があるように、四万十川には多くの観光客が通年訪れる。近年は、町内のオートキャンプ場や農家民宿が人気を集めている中、各地域や各民宿の特徴を活かした体験メニューを準備。田舎料理体験、川漁体験、農業体験、林業を活かした木工教室など様々ある。また、自然体験を引率するガイドやインストラクター、コーディネーターの育成にも力を入れている。

目的別滞在タイプ

【短期滞在型】「ちょこっと、田舎暮らし」

農家民泊

町内にある約10件の民宿による体験民泊。四万十町の豊富な森林資源を中心とした体験メニューを、民宿と相談して選ぶ

ことができる。中でも、四万十川の魅力を実感できるカヌーや遊泳、魚釣りなどの川遊び、川漁体験は人気が高い。



【研修・田舎支援型】田舎で学んでお手伝い

有機農業研修制度

恵まれた環境を活かし、農業・化学肥料・除草剤を使用しない有機農業で自立経営を目指す人を育成する『NPO法人かまん』による、研修制度。営農研修、農地、住居、販路の紹介など、

生活にすぐ生きる支援プログラムを実施。また、3ヶ月間の研修を経て、営農が開始できるような支援を行っている。
<http://www.kaman.or.jp>





24

玄界灘に浮ぶ、古代ロマンの島 長崎県壱岐市

ながさきけん・いきし

『日本快水浴場百選』にも選ばれた筒城浜や辰の島海水浴場をはじめ、透きとおった海と白いビーチに恵まれた、壱岐の島。『魏志倭人伝』にも登場する一支国（壱岐市）として、九州本土と大陸交易の中継基地となり独特の文化を育んできた。島内には、多くの遺跡が残され、『原の辻遺跡』は国内最大級の環濠集落として、国特別史跡の指定を受けている。

太古の歴史と、豊かな自然の魅

力を感じて学べる『子ども農山漁村交流プロジェクト』では、子供たちに「生きる力」の源を提供することが目的。専務理事を務める下条正文さんは、「島暮らしを体感してもらおうことで、自分の得意なことや好きなことを見つけてもらえたら」という。プログラムの魅力を伝えるため、島内だけでなく、各地の学校へ自ら説明へ行くことにも熱心だ。「各民宿とも話し合い、家族の一員のように過ごしてもらおう。数日を過ごした後、

民宿のお父さんとお母さんと親子のような関係になって、また来んね、待ちちょるよ、という会話が生まれたら幸い」と微笑む。今では、島を訪れた子供が成長して結婚し、自分の子供たちを連れて島に帰ってきてくれることもあるほどだ。

イルカとのふれあい施設『イルカパーク』には、若い世代の移住者が活躍する。埼玉出身の松村望さんは、20歳から壱岐で働きはじめて5年。「イルカの餌に凍っ

たサバを扱ったり、酸素ポンペを運んだり、苦労もあるけれど、マリンスルーの海でイルカといられるから頑張れる」。暮らしの面では、「最初は友だちも少なかったけれど、町のバレーボールサークルに参加するようになって同世代の輪が広がった」とはにかむ。互いに20歳の大坂出身の柳瀬真生さんと、山口出身の安村真理江さんは、移住して1年目。「小学生の時からなりたかったイルカトレーナーの夢が叶いました。都会の

水族館のようにショーのみでなく、お客さんとの会話も楽しめるのが魅力」と、柳瀬さんはいう。安村さんは、「生まれ育った山口と似ていてほっとする」と話す。

トレーナーになりたくて学校を卒業しても、ほとんど夢が叶わない現実の中、「温暖な海洋性気候の島で、好きな仕事ができ感謝」と、3人は声をそろえる。ここには、そんな若い移住者を応援しに、地元の人も施設によく顔をだす穏やかな環境がある。

data
福岡県と対馬の中間地点に位置。島は、東西15km、南北17kmあり、全国で20番目（沖縄を除く）に大きな島。夏季は涼しく、冬季はやや温暖で、年間を通して過ごしやすい。「麦焼酎発祥の地」として、市内には7つの蔵元がある。「神戸牛」や「松阪牛」など全国銘柄牛の素牛になるほど、肉質の良さが定評な第一級の国内黒毛和牛のブランド『壱岐牛』も名高い。
●人口…31,003人/世帯数…11,676世帯（2009年4月30日現在）
●交通…羽田空港から長崎空港まで飛行機で1時間55分、長崎空港から壱岐空港まで飛行機で30分。羽田空港から福岡空港まで飛行機で1時間45分、福岡空港から博多駅まで電車で10分、博多駅から博多港までバスで10分、博多港から壱岐市まで高速ジェットフォイルで約1時間

「交流居住」施策の概要

Iターン者に奨励金を支給する『壱岐市定住促進支援奨励金』。新規の就農者の確保と自立を促進するために、就農予定者の研修や就農時の諸投資に対して支援する『壱岐市新規就農支援事業』。漁業就業者の確保・促進するために研修費用の助成をする『新規就業促進事業（漁業）』などが充実。これから移住を希望する人を対象に、温泉、釣り、シーカヤック、磯遊びなど、各々の趣味嗜好に合わせた体験メニューや宿泊施設などの紹介も行う。

目的別滞在タイプ

【短期滞在型】^〆ちよこつと、田舎暮らし

子ども農山漁村交流プロジェクト

島の日常を感じてもらい農業や漁業をはじめ、壱岐の人とふれあいながら島の特産品を使った商いを体験するフリーマーケット、ほかの地域では味わえない弥生時代の住居作り、遺跡発掘、古代食調理などの様々な体験メニューを用意。また、これらに

宿泊を組み合わせたプランとして、「～温故知新～壱岐島体験」、「～時空体験～弥生の風に吹かれて」などもある。2010年には、『県立埋蔵文化財センター・市立一支国博物館』が開館することから、より充実したプログラムを計画している。



【ほぼ定住型】^〆どっぷり、田舎暮らし

空き家・空き地情報バンク

定住人口の増加による地域振興を図るために、UIターン希望者に情報提供する『空き家・空き地情報バンク』を開設。空き家や空き地の所有者と、利用希望者との間の情報提供や連絡調整をスムーズに行う。また、支援施策として、定住する意志を

もつIターン者に奨励金を支給。そのほか、移住希望者がより島での暮らしを楽しめるように、自然環境、歴史遺産、癒しや遊びスポットなど、島のセールスポイントをホームページなど多方面から紹介する。





25

熊本県上天草市

くまもとけん・かみあまくさし

熊本市内から天草方面へ車を走らせると、思わず「はっ、と息をのむ」景色が目の前に広がる。海の上ですっと真っ直ぐに伸びた1号橋（天門橋）を通りかかった瞬間、別世界へと誘われるのだ。その感覚が味わえたら、上天草市に足を踏み入れた証。約3万7000人の民衆を率いて幕府に挑み歴史に名を遺した、天草四郎の故郷である上天草市。穏やかな海に浮かぶ大小の島々、ゆったりと一日を終えようとする

『夕日百選』にも選ばれている美しい夕日…。ロマンに溢れたこの景色を前に、自由と平和の国を夢見たことだろう。企画政策課の小島潤さんは、あるIターン者の言葉を思い返してこう言う。「その方は、日本だけでなく世界中で移住地を探していたそうです。でも、1号橋を渡った瞬間、そこに広がる景観を見て上天草市に移住することを決めた、とおっしゃっていました」。その体験に納得するだけの、素晴

らしい景色がここにある。自然と多彩な食材、6つの温泉、温暖な気候も相まって、上天草市への移住希望者は多い。その想いを叶えるための第一弾が、『ショートステイプログラム』。「まずは、上天草を知ってもらいたい。そのために、できるだけ安いプランで気軽に堪能できるプログラムを組んでいます」と小島さんは話す。2008年、『おためしライフ』（総務省実施）のモデル地域としてモニター受け入れを行った上天草市。

「交流居住」施策の概要

観光やツーリズムの先にある、移住定住に目を向けた取り組みを主に行っている。『ショートステイプログラム』は、2、3泊から1週間程度の滞在。市内の民宿への宿泊を格安で提供してもらい、上天草市の豊かな自然や新鮮な食材を実際に体験することができる。移住定住を検討している人が対象。市内にあるタラソテラピー施設『スパ・タラソ天草』入場無料券などが特典として付く。

目的別滞在タイプ

【長期滞在型】^〆のんびり、田舎暮らし

ミドルステイ

上天草市での暮らしを体験できるミドルステイ。『龍ヶ岳山頂自然公園』、『白嶽森林公園』、『小島公園』にそれぞれあるロッジ・バンガロー・コテージを格安で

提供。11月から3月までの間（夏期はロッジとして運営）で、1週間から1ヶ月、ワンシーズン程度滞在できる。希望者には、市内案内も受け付けている。



【ほぼ定住型】^〆どっぷり、田舎暮らし

上天草市セカンドライフ支援ネットワーク

2008年4月1日にUIターン実践者により誕生した『上天草市セカンドライフ支援ネットワーク（愛称…外の風）』。現在は4家族5人がメンバーとして参加。メンバーはアドバイザーと

して、移住定住希望者の不安解消のためのアドバイスを行う。定期会議をして意見情報交換をしながら、パンフレット作成やPR活動に努めている。



野生のイルカに出会う体験、干潟観賞、五橋遊覧など、上天草市ならではのプログラムを実施し、参加者からは「景観が素晴らしい」「人情味がある」という感想が寄せられたという。そして、移住を検討する際に力強い支えとなるのが、上天草市の第二の人生を謳歌している人による実際の「声」だ。2008年、移住した6家族9人が『上天草市セカンドライフ支援ネットワーク』を発足。移住検討者が一番欲

しい情報や意見を述べ、お世話することが目的だ。「メンバーの皆さんは体験者。実体験からのアドバイスだから信頼できると思います」。ロマンを追い求めるだけでは、現実の生活は時に厳しいもの。だからこそ、先輩たちのリアルな声はとても助けになるだろう。ドラマティックな景観が、日常となる暮らし。上天草市になびく潮風に包まれたなら、自然がもたらす美しさに感謝できる心を忘れないでいられることだろう。

data
有明海に面した島々からなる。市のほぼ全体が『雲仙天草国立公園』に含まれる景勝地。隠れキリシタンの歴史が根付く南蛮文化、装飾古墳など各地に多彩な歴史跡がある。海、山、温泉があり、フランス発「タラソテラピー」施設や、イルカウォッチング、ハイキングなどが楽しめる。
●人口…32,616人/世帯数…12,345世帯（2009年5月末現在）
●交通…阿蘇くまもと空港より車で約1時間30分



26

素朴でやさしい農村風景に、「ただいま」 熊本県山江村 くまもとけん・やまゑむら

ある日の夕方。村にある図書館の前を通ったとき、自転車に乗った小学校高学年の女の子が、「こんにちは」と元気に声を掛けてきた。こういう光景が、特に都会では当たり前でなくなったのはいつからだろう。ここには、農村風景と同じように今も昔も変わらない純粋な輝きが残っている。村の南北に横断する九州自動車道・人吉I.Cから車でわずか5分。見渡す限り広がるのは、のどかな農村風景。懐かしさを感じる風景

に惹かれ、山江村に幾度も訪れる人は多い。『ほたるの荘』は、2地域居住や地域交流を目的とした施設だが、たった3棟だけなのに、は訳がある。「棟が多いとそこだけでまともになってしまう。地域との交流を大事にしてほしいので、あえて3棟だけにしているんですよ」と、産業情報課・平山辰也さんは言う。村民にとっても、村外の人々との交流は楽しみのひとつ。「『ほたる荘』に電気がつくと、村人は挨拶に行くんです。そして滞

在者が帰るときには「いつ戻ってくるかね?」と尋ねるんですよ。そのような交流が自然と生まれることで、「まるで親戚」のような付き合いに至っている。「滞在者である福岡市在住のある女性は、自主企画で福岡や熊本市の友人たちを山江村へ連れてくるツアーを年に5回行っています」。それらはすべて、山江村への「恩返し」の想いから生まれているという。良質な温泉が沸き、「万江川」では灯火のようにホテルが舞う。

「交流居住」施策の概要

グリーンツーリズムでの短期滞在者から、定住希望者への事業まで行っている。定地分譲地『本城の地』の販売や、村内の農林漁業、商工観光、地場産業に携わる人を対象にした先進技術習得のための研修や実習にかかる経費を助成。また、移住者へ向けて、小学6年生以下の医療費がすべて無料になるほか、小学校に就学する児童に就学金を支援している。

目的別滞在タイプ

[往來型] 〆行ったり来たり、田舎暮らし

ホテルの荘

2007年に完成した二地域居住や地域交流を目的とした施設。移住を考えている人へ年間契約(最長3年)で貸出している。現在は全3棟、契約済み。農業体験だけでなく、村民との交流や

大自然の中での生活を楽しめる。地元の人と「親戚のような」付き合いになり、今では自分のことを「準村民」と語る人もいるとか。



[短期滞在型] 〆ちょこっと、田舎暮らし

グリーンツーリズム

『山江グリーンツーリズム研究会』を中心に、山江村の魅力を実感できる体験メニューを用意。昔ながらの豆腐づくり体験や山江村自慢の『山江栗』の収穫体験など。交流体験だけでなく宿

泊所として利用もできる『時代の駅むらやくぼ』(旧山江村役場庁舎・1937年建設・国の登録有形文化財)や『万江川 木のふれあい館』の施設で開催することもある。



純粋な自然と、市街に近い利便性。そのバランスの良さもあり、山江村への移住希望者は多い。定住促進事業として造成した定地分譲地『本城の森』は、28区画のうちすでに26区画が売却済という人気振りだ。さらに、小学6年生までの医療費がすべて無料となる特典もある。村の人口自体は減っているものの世帯数は増加。そのことから、村の定住促進の見通しは明るい方向へ進んでいることがうかがえる。

「財政状況は厳しい中ではあるけれど、役場職員の平均年齢が39歳と県内で一番若い。これからはもっと若いパワーが活かされ、村の活性化に繋がると良いですね」イベントでは、かつて村の欠かせない足であったボンネットバスが、走る産業遺産として元気な姿を見せる。古き良さを大切に、今も昔も変わることのない純粋さが残る場所。そこに新たなパワーが加われば、自然も人もいつまでも輝き続けることだろう。

data
一向宗(浄土真宗)禁制の地としての歴史がある人吉球磨地方。1989年に開通した九州自動車道が南北に横断しており交通の便に恵まれている。総面積の約9割が山林であり、日本三大急流のひとつ球磨川の支流である「山田川」と「万江川」が流れている。
●人口…3,929人/世帯数…1,250世帯(2009年5月末現在)
●交通…鹿児島空港より車で約55分



27

江戸時代の風情が今に残る、城下町 大分県杵築市

おおいたけん・きつきし

江戸時代、杵築藩松平氏3万2000石の城下町として栄え、国東半島の政治・経済の中心地だった、杵築市。南北の高台には武家屋敷、その谷間には町家が軒を連ね、情緒溢れる石畳の坂道が続く。

米と椎茸栽培を行いながら、農工房『徳とく山荘』として宿泊を受け入れる佐藤徳さんは、「人のふれあいをモットーに農家民泊をして、杵築ならではの体験してもらえたら」と、『山香グリーン

ツーリズム研究会』で会長を務める。鳥のさえずりで目覚めたり、朝の空気の冷たさが心地良いと、一度来てくれた人のリピート率も高い。「味噌ができる時期に、今年も送ってほしいと連絡をくれる人もいて、味噌作りにも想いがこもる」と話す。

千葉県から移住して7年になる糸原愛徳さんは、クヌギ林の真ん中に一軒家を建てて夫婦で暮らす。「移住するきっかけは、写真を撮りたいとか、美味しいお酒が飲み

たいとか、何気ないことでいい」と、日焼けした笑みを浮かべる。アウトドアをほとんどこなす糸原さんが杵築に魅力を感じたのは、転勤で北九州に暮らしていた時に遡る。「飲み屋のマスターに誘われて釣りにきたら、大きな鯛が釣れてね。こんなところがあることに感動しました。それに今なら1,000坪の雑木林があると役場で教えてもらって、移住を即決した」と言う。家への愛着も深い。「田舎の人は家を建てるならクヌギを

「交流居住」施策の概要

滞在施設情報と体験プログラム情報の充実を図る。東京ドーム約24個分の敷地に、発見「農業を知ろう・参加」農業で遊ぼう・癒し「自然と親しまう」をコンセプトに造られた『大分農業文化公園』。200mm屈折望遠鏡を備えた天体観測施設『きらら館』。テニスコート、アスレチック施設、ログハウス、キャンプ場などの施設が利用できる、標高389mの横岳山の頂上にある市営の宿泊施設『横岳荘』。これらの施設のほか、アットホームな民泊も充実。

目的別滞在タイプ

【短期滞在型】「ちょこっと、田舎暮らし」

大分やまが農村民泊

「休日を農村で過ごそう、をキャッチフレーズに、『山香グリーンツーリズム研究会』が家族の一員として暮らせるような農家民泊を提供。体験内容は、「農業体験」をはじめ、「石釜パン・

ピザ作り」、「ハーブガーデンと料理」、「漢方薬草探索」など女性に人気のもの、「小さな摩崖仏めぐり」、「樹木管理」、「鋸山トレッキング」など地域性を活かしたもので幅広い。



【ほぼ定住型】「どっぷり、田舎暮らし」

不動産『スローライフ』

田舎でゆっくりしようという移住希望者に、「せかすのではなくゆっくりと話し合っていきたい、という思いで、空き家の紹介を行う。代表自身もIターンである経験を活かして、移住希

望者が抱える不安や疑問など親身な対応を心がけている。また、移住者の趣味嗜好もあることから、定住促進窓口である市役所とも連携を取っている。



切れというけれど、都会から来た私としてはできるだけ残したかったから、最小限に留めました」。そんな家を囲むように、必要に応じて自分で建てたアトリエなどが点在するほか、野菜やイチジクがたわわに実る。「大工も畑もここに来てからはじめてだったので、どれも手探り。これからはまだ建てたいものがある」と、想いは高まる。

移住希望者に物件紹介をする不動産会社『スローライフ』を営む新見奉之さんも、大阪からの移住

者のひとり。杵築は、バイクで日本を3周して出合った場所。「リゾートではなく里山。それでいて、飛行機で50分あれば大阪にも行ける。こんなに魅力的な場所はない」と話す。今一番の関心は、時を重ねた城下町に移住したくなるような物件を一件でも多く探すことだそうだ。

こうして、日々切磋琢磨している人がいることが、この町の魅力に繋がっている。

data

大分県の北東部、国東半島の南部に位置。別府湾に面する沿岸地域から山間部に至るまで多様な地形に富む。大分空港から20分、温泉で有名な別府市へ30分、県都大分市へ50分と交通の利便性がよい。気候は、瀬戸内式特有の温暖な気候に恩恵を受け、年平均気温は15℃程度、年間平均降水量は約1,500mmで積雪はほとんどない。

●人口…33,080人/世帯数…13,544世帯(2009年5月末現在)

●交通…羽田空港から大分空港まで飛行機で約1時間30分、大分空港から杵築駅まで車またはバスで約25分



28

日本三大車窓から、暮らしを見つめる 宮崎県えびの市 みやざきけん・えびのし

火 山によりできた加久藤カルデラに広がる田園風景と、彼方に連なる霧島連山。白くたなびく雲海が姿を現す日もあるここは、『日本三大車窓』として堂々たる景色を見せている。絶景の中で大空を舞うパラグライダーを楽しめる『矢岳高原』や『えびの高原』を有するえびの市。季節の到来をありのままの姿で表現する自然があると同時に、熊本・鹿児島・宮崎への分岐点として、南九州の交通の要衝ともなっている。

霧島連山と九州山地から湧き出る豊富な水資源に恵まれているえびの市は、古くから米どころとして栄えてきた。「今年も豊作でありますように」。いつの時代も、人々はそう願い天を仰いできた。人々はその願いを、石に刻んだ『田の神さあ』に込めて大切に崇めてきたという。18世紀初頭に始まった、薩摩藩独特の田の神信仰。『田の神さあ』の姿形や表情はどれも異なり、個性的でどこか愛嬌がある。威厳に満ちた近寄り難い

神ではなく、農民たちの心の拠り所となるような存在だ。今でも、えびの市内の約140ヶ所で、豊作となるよう田んぼを見守っている『田の神さあ』。そこからも、代々受け継がれてきた伝統が、ここには根付いていることがうかがえる。「米どころですし、ここの人々は田んぼを大切にしてきました。それに、地域ごとに伝統芸能が濃く残っている。今もあたり前のように大事にしています」と言うのは、福岡市からのUターン経験者で

ある企画課・貴嶋誠也さん。「今は、九州のほとんどがグリーンツーリズムをやっています。だからこそ、えびの市に『あるもの』を活かしていきたい」。そんな中、農家の有志で立ち上げたのが『グリーンネットえびの学舎』だ。竹林を活かした「竹の子狩り」、棚田での田植え・稲刈り体験、市内在住の交換留学生との餅つき交流会など、様々なグリーンツーリズムを計画。『グリーンネットえびの学舎』は、地元の農家の人々

がメンバーとなり、農家ネットワークを駆使してツーリズムを行っている。「集落ごとの結びつきはとても強い。でも、ここは『焼酎文化』。地域のひとと一度一緒に飲めば、すぐに打ち解けていろいろと手助けをしてくれるようになりますよ」。この地に残る文化と人々の営みは、そう簡単に色褪せない。だからこそ、『ここにあるものを活かしていこう』という心意気が、実を結ぶのだろう。

data
九州自動車道えびのICがあり、熊本市・鹿児島市・宮崎市へそれぞれ1時間で往来できる。福岡市へも2時間余り。日本三大車窓や高原などを有し、四季折々の自然を堪能できる。また『京町温泉郷』や『吉田温泉』など県内で最も多く温泉のある市でもある。
●人口…21,797人/世帯数…9,144世帯(2009年7月現在)
●交通…鹿児島空港より車で約35分、宮崎ICより約1時間、熊本ICより約1時間20分

「交流居住」施策の概要

えびの市の恵まれた自然環境や資源、産物を活用したグリーンツーリズムが中心。宮崎県内で一番多く温泉を有しているため、温泉宿は多い。そのため、今のところ農家民宿ではなく、気軽に参加できるような日帰りや半日のツーリズムを行っている。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] 『ちよこつと、田舎暮らし』

グリーンネットえびの学舎

『きぼっど村』『西川北グリーンツーリズム研究会』など、地域の農家の有志が集まった団体が主体となり、様々な旬のツーリズムを開催。『グリーンネットえびの学舎』は、それら様々な

グリーンツーリズムを束ね、団体や農家をネットワークし、えびの市にある資源を活かしたグリーンツーリズムの受け入れを行っている。



[ほぼ定住型] 『どっぶり、田舎暮らし』

『来やんせ えびの』 定住促進サイト

えびの市への定住をサポートすることを目的に、2009年4月より開設されたポータルサイト。空き家バンクや定住者の声などを発信予定。また担当職員によ

るブログは、ほぼ毎日更新されており、えびの市の魅力や情報を発信している。
<http://www.ebikyan.jp/>





29

移住天国へ、ようこそ
鹿児島県霧島市 かごしまけん・きりしまし

飛行機を降りたら、そこは霧島市。東京から90分、大阪からは70分。都会から遠いようでとても近い。

「霧島市の水道はすべて湧水。しかも、シラス土壌でこされ洗練された湧き水です。また、自然や歴史的遺産が多く、温暖で空気がおいしい。温泉は200ヶ所以上もあり、泉質も多種に及ぶのでその人その人にマッチする温泉がきっとあるはずです。車でちょっと走れば、各種病院や大型スーパーもあ

り暮らしやすい街ですよ」。企画政策課・池之平信明さんはそう語る。霧島市への移住希望者が後を絶たない理由は多岐にわたる。

坂本龍馬夫婦がハネムーンで満喫した温泉と景勝や『霧島国立公園』、九州最古の木造駅舎『嘉例川駅』、『大隅横川駅』などは観光名所として有名。しかし、暮らすことを考えたとき、新たな魅力が欲しいもの。それを満たしてくれるのが、『お試し滞在』だ。

約3mの水底まで透き通り、ほ

こぼこと湧き水が溢れ出る『大出水』は、まるで秘境の湧き水。また、小さいながらも風情のある湯治場は、地元の人が代々愛する湯だ。『お試し滞在』で、池之平さんらは参加者のニーズに合わせながらも「地元の間しか知らないような所を案内します」と言う。しかし、これにはこだわりがある。同課・新門勝利さんはこう語る。「霧島への移住を真剣に検討している方を対象に募集をしています。だから皆さん真剣で、何度も通っ

「交流居住」施策の概要

近年、平野部では人口が増えているものの中山間部は過疎化が進んでいるため、人口増加対策として、また移住者向けにワンストップ相談体制を確立するための『おじゃんせ霧島移住連絡協議会定住推進室』を設置（「おじゃんせ」＝鹿児島弁で「いらっしゃい」・「どうぞ来てください」の意）。住環境・生活環境・福祉などの情報を一元化し、情報発信の充実強化に取り組んでいる。また、行政内での推進体制として『きりしま移住政策群』も設置し、民間団体との連携を図りながら、移住定住対策にも取り組んでいる。

目的別滞在タイプ

[短期滞在型] ちよこつと、田舎暮らし

お試し滞在

主に年2回、「霧島市移住体験研修 秋の陣・冬の陣(ちよつとした農業やってみ隊)」を実施。移住を真剣に検討している人を対象に、農業体験や温泉・森林セラピーを体験。スポットを浴びていない場所へ案内する

など、参加者のニーズに合わせた日程を組んでいる。また、希望者には、現地案内などは通年対応している。さらに、民間団体の『おじゃんせ霧島移住連絡協議会』と連携し、温泉付きの分譲地や借家の案内なども実施。



[ほぼ定住型] どっぷり、田舎暮らし

移住定住促進補助金

中山間地域(国分・隼人の市街地を除く区域)に住宅を新築・購入または増改築した霧島市外からの転入者に補助金を交付する制度。5年以上居住すること、世帯主が65歳未満、自治会に

加入することなどの条件をクリアすると最大200万円を補助。また、扶養補助金額として中学生以下の子供1人当たり20万円が支給される。



て検討される。こちら中途半端な対応はできません。結果、一度の『お試し滞在』に参加する平均3組のうち、1～2組は移住するという実績を重ねている。

また、2006年に民間から移住希望者に対し様々な情報を提供する組織『おじゃんせ霧島移住連絡協議会』が発足。行政と民間がそれぞれの役割を分担して連携し、『IJU(移住)マガジン』を発行するなど、力強いサポートを行う。「地元だけど、まだ入ってない温

泉がたくさんある。今、少しずつ確認中なんです」と笑う池之平さん。「我々は、自分たちの街が好きなんです。この仕事は、すぐ責任もあるけれどその分やりがいもあります」。環境といい交通の利便性といい、生活するのに調和の取れたこの街は、まさに「移住天国」。そこには地元を愛する人々の想いが土台にあり、移住天国・キリシマはこれからもさらに築き上げられていくことだろう。

data
 鹿児島県本土のほぼ中央部に位置し、国際空港や高速道路が交差する交通の要衝。海拔0mから霧島連山の最高峰1,700mまでと、海・山・川・田園・温泉を有する多彩な地域。『霧島国立公園』はジオパークの認定を目指して活動中。また、胃腸や消化器系に効果があるとされる湧き水『関平鉱泉水』は全国に愛飲者をもつ。
 ●人口…128,462人/世帯数…57,648世帯(2009年7月現在)
 ●交通…鹿児島空港より車で15分。福岡市より約3時間。熊本市より約1時間40分



30

島人の宝、が暮らす島

沖縄県宮古島市

おきなわけん・みやこじまし

「宮古島の魅力をひとつ挙げておいたら人です」

これは、この島で何度も耳にした言葉。青い海、白い砂浜、泡盛、サトウキビ畑…。南国・沖縄が売りにする資源はいくらでもあるにも関わらず、一番に掲げる資源を人、だと語る島民が多い。

宮古島の人口は約5万5000人。観光客も年38万人ほどは訪れる。ダイバーたちにも人気の島ではあるが、隣の石垣島などに比べてその印象が薄い。石垣島には「赤い

瓦屋根」「石畳の道」といった県外の人々がイメージする琉球文化、が今も残っている一方、宮古島はコンクリートの家が建ち並ぶ。

「沖縄の離島はどこも昔から台風の通り道ですが、宮古島は台風が最大勢力になりやすい場所です。だからそれに対応するために家の建て替えを余儀なくされてきました。でも、この島は自然災害に苦しんできた分、島民の底力というか団結心が強いんだと思います」

そう語るのは、観光商工課の赤

嶺淳幸さん。隆起サンゴ礁により形成された宮古島は、もっとも高い場所で100mほどしかない平坦な地形で、島には川も存在しないため昔は水不足に苦しんでいた時期もあったという。しかし川の土砂が流れ込まない海は、沖縄の中でも随一の透明度を誇る。この豊富な海の資源を「県外の人たちにも伝えたい」と本土からUターン組として戻ってきたのが、『ふからす企画』代表の平良一訓さんだ。「本土にいた時も島に行きた

「交流居住」施策の概要

2009年に全国で13ヶ所しかない『環境モデル指定都市』に選定された。豊富なサトウキビから出る廃糖蜜からバイオエタノールを製造する設備も完備し、ガソリンと混合したE3燃料を製造して、行政の公用車のガソリンとして実験的に使用を開始。島内すべてのガソリン車への供給を目指している。『エコアイランド宣言』を掲げる宮古島市は、島民や企業とも連携し、環境の島を確立することを中心にしたエコツアーや移住の施策を行っている。

目的別滞在タイプ

【短期滞在型】ちよこっと、田舎暮らし

海人体験ツアー

「島を汚せば、海が汚れる。海が汚れば、島の魅力も半減する。そんな環境を守る意識を持った人たちに来て欲しい」との思いで、伝統的な追い込み漁法「バラジャン」を始めとして、浜辺近くで行う「刺し網漁」、モズク

収穫体験、県魚のグルゲン釣りなど、漁師たちと一緒に海人を体験できるさまざまなツアー企画を実施。
お問い合わせ…0980・79・7003
(ふからす企画)



【研修・田舎支援型】田舎で学んでお手伝い

サトウキビ、環境プロジェクト

『環境モデル指定都市』に選定された宮古島では、豊富なサトウキビを環境資源に活かす取り組みを行っている。サトウキビの植付けから収穫まで、その時期に応じた農家の手伝いを通じ、

宮古島の環境政策を行うメニューを提供。植付け（夏植え）時期は8～10月、収穫は1～3月までと約1年半ほどの期間で随時実施している。



い、という友達がいれば連れて帰っていました。僕は宮古島が大好きで嫌いな所がない。でもその魅力は海だけじゃなく、そこにいる先輩たちの想い。つまり人ですね」
地元に戻った平良さんは、単なる観光ではなく地域密着型の企画を考案。例えば、海に約80mもの網をはって5～10人ほどで行う「バラジャン」といわれる追い込み漁法。漁師ではない平良さんも、先輩たちの背中を見ながら必死になって錨をおろし、網をはる。「後

輩たちに島を継いで行ってもらいたい。そういう責任が俺たちにはあるからさ」と、船長の本村貞和さんも協力を惜しまない。
「人との出会い。それ以外に大事なものがほかにある？」と先輩たちが自信を持って語るこの島は、地元の繋がりでなく、島外の人との出会いも大切にしない。宮古島にとっての「島人の宝」は、人。ここは、そういう人たちが暮らし続けている島なのである。

data

宮古諸島は、沖縄本島（那覇）から南西約300kmに位置し、大小8つの有人島（宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島、多良間島、水納島）から構成されており、宮古島を中心に池間島、来間島とは橋で繋がっている。総面積は、約204.5km²。大阪市よりも少し小さく、沖縄県で4番目の大きさの島。1年の平均気温は摂氏23.3度、降水量は2,020mmで、亜熱帯海洋気候に属している。

●人口…54,982人/世帯数…23,579（2009年7月現在）
●交通…羽田空港から宮古空港までは毎日1便、直行便が出ている。所要時間は約3時間

受け入れ窓口一覧 (掲載順)

01 北海道浦幌町 —17

まちづくり政策課 佐藤芳雄
tel 015-576-2112 / fax 015-576-2519
mati@urahoro.jp
http://www.urahoro.jp/



02 青森県平川市 —19

NPO 法人 尾上蔵保存利活用促進会 佐藤正彦
tel 0172-57-5190 / fax 0172-57-5190
kura-334club@smile.ocn.ne.jp
http://www4.ocn.ne.jp/~kura-334/



03 岩手県久慈市 —21

交流促進課 鈴木沙織
tel 0194-52-2168 / fax 0194-52-3653
k-turn@city.kuji.iwate.jp
http://www.city.kuji.iwate.jp/



04 秋田県鹿角市 —23

産業建設部 観光交流課 本館匠
tel 0186-30-1310 / fax 0186-30-1515
info@city.kazuno.lg.jp
http://www.city.kazuno.akita.jp/



05 山形県金山町 —25

総務課 総合政策係 神沼幸希
tel 0233-52-2111 / fax 0233-52-2004
sui-t@town.kaneyama.yamagata.jp
http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/



06 福島県川内村 —27

総務課 井出寿一
tel 0240-38-2112 / fax 0240-38-2116
kizai@vill.kawauchi.lg.jp
http://www.kawauchimura.jp/



07 群馬県片品村 —29

むらづくり観光課 萩原明富
tel 0278-58-2112 / fax 0278-58-2110
h-akitomi@vill.katashina.lg.jp
http://www.vill.katashina.gunma.jp/



08 千葉県南房総市 —31

企画部 企画政策課 佐藤砂織
tel 0470-33-1001 / fax 0470-20-4598
kikaku@city.minamiboso.chiba.jp
http://www.city.minamiboso.chiba.jp/



09 新潟県阿賀町 —33

企画観光課 渡辺和志
tel 0254-92-4766 / fax 0254-92-5479
kikaku@town.aga.niigata.jp
http://www.town.aga.niigata.jp/



10 福井県池田町 —35

総務政策課 溝口淳
tel 0778-44-8004 / fax 0778-44-6296
j.mizoguchi@town.ikedafukui.jp
http://www.town.ikedafukui.jp/



11 長野県木島平村 —37

総合政策課 企画財政係 岡田孝夫
tel 0269-82-3111 / fax 0269-82-4121
kicho@kijimadaira.jp
http://www.kijimadaira.jp/



12 岐阜県白川村 —39

総務課 吉實秀典
tel 05769-6-1311 / fax 05769-6-1709
zaisei-l@vill.shirakawa.lg.jp
http://shirakawa-go.org/



13 三重県大台町 —41

NPO 法人 大杉谷自然学校 代表 大西かおり
tel 0598-78-8888 / fax 0598-78-8889
ons@ma.mctv.ne.jp
http://osugidani.jp/



14 滋賀県高島市 —43

政策調整課 青谷守
tel 0740-25-8114 / fax 0740-25-8156
seisaku@city.takashima.shiga.jp
http://www.city.takashima.shiga.jp/



15 奈良県下北山村 —45

総務課 主事 谷口英雄
tel 07648-6-0001 / fax 07648-6-0377
soumu@vill.shimokitayama.nara.jp
http://www.vill.shimokitayama.nara.jp/



16 和歌山県すさみ町 —47

総務課 副課長 町塚敦夫
tel 0739-55-4802 / fax 0739-55-4810
susami@town.susami.lg.jp
http://www.town.susami.lg.jp/



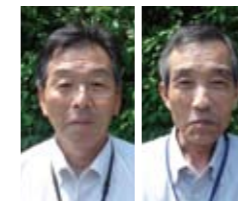
17 鳥取県倉吉市 —49

総合政策室 主任 木藤隆親
tel 0858-22-8161 / fax 0858-22-8144
kitout@city.kurayoshi.lg.jp
http://www.city.kurayoshi.lg.jp/



18 島根県雲南市 —51

政策企画部 地域振興課
荒木正雄・加藤正澄
tel 0854-40-1013 / fax 0854-40-1019
chiikishinkou@city.unnan.shimane.jp
http://www.city.unnan.shimane.jp/



19 島根県邑南町 —53

定住企画課 大屋典香
tel 0855-95-1117 / fax 0855-95-0223
oya-norika@town.ohnan.lg.jp
http://www.town.ohnan.lg.jp/



20 山口県阿武町 —55

総務課企画広報係 定住対策担当 藤村憲司
tel 08388-2-3111 / fax 08388-2-2090
kikaku@town.abu.yamaguchi.jp
http://www.town.abu.yamaguchi.jp/



21 徳島県三好市 —57

まちづくり推進課 中村竜司
tel 0883-72-7607 / fax 0883-72-7202
r-nakamura_01@city.tokushima-miyoshi.lg.jp
http://www.city-miyoshi.jp/



22 愛媛県久万高原町 —59

企画観光課 企画政策班 高木勉
tel 0892-21-1111 / fax 0892-21-0922
kikakukankou@kumakogen.jp
http://www.kumakogen.jp/



23 高知県四万十町 —61

社団法人 四万十町観光協会
秦泉寺智早・毛利直弘
tel 0880-29-6004 / fax 0880-29-6004
kankou@kubokawa.com
http://www.kubokawa.com/



24 長崎県杵岐市 —63

杵岐島振興推進本部 政策企画課
田口慎二郎
tel 0920-48-1111 / fax 0920-47-4360
kikaku@city.iki.lg.jp
http://www.city.iki.nagasaki.jp/



25 熊本県上天草市 —65

総務企画部 企画政策課 小島潤
tel 0964-56-1111 / fax 0964-56-4972
kojima-j@city.kamiamakusa.lg.jp
http://www.kamiamakusa-c.kumamoto-sgn.jp/



26 熊本県山江村 —67

産業情報課 企画情報センター係
平山辰也
tel 0966-23-3112 / fax 0966-23-5233
hirayama@vill.yamae.lg.jp
http://www.yamaemura.jp/



27 大分県杵築市 —69

企画財政課 企画調整係主査 宮部雅司
tel 0978-62-3131 / fax 0978-62-3293
masasi-miyabe@city.kitsuki.lg.jp
http://www.city.kitsuki.lg.jp/



28 宮崎県えびの市 —71

企画課 貴嶋誠也
tel 0984-35-1111 / fax 0984-35-0401
ms-kijima@city.ebino.lg.jp
http://www.city.ebino.lg.jp/



29 鹿児島県霧島市 —73

企画政策課 おじゃんせ霧島移住
定住推進室 池之平信明・新門勝利
tel 0995-45-5111 / fax 0995-47-2522
kikaku@city-kirishima.jp
http://www.city-kirishima.jp/



30 沖縄県宮古島市 —75

観光商工課 赤嶺淳幸
tel 0980-76-3184 / fax 0980-74-7070
a.jyunkou@city.miyakojima.lg.jp
http://www.city.miyakojima.lg.jp/



未来へと続く風景を 創っています。

「当たり」が魅力の宝くじは、もうひとつ大切な役割を担っています。それが、皆さんの暮らしに「お役に立っている」収益金による街づくり事業です。教育施設、道路、橋、公民館等、幸せな生活を支えるさまざまなところに宝くじの収益金は役立てられています。

田舎暮らしのススメ④ [交流居住の先進自治体事例集]

発行日…平成21年9月31日

発行…総務省自治行政局過疎対策室・財団法人過疎地域問題調査会

お問い合わせ…財団法人過疎地域問題調査会

東京都港区虎ノ門1-13-5 第一天徳ビル3階 tel 03-3580-5547

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

宝くじの収益金は、
身近な街づくりに役立っています。



財団法人 **日本宝くじ協会**

当せんはしっかり調べて、しっかり換金。

<http://www.jla-takarakuji.or.jp>